

第5回

# 学習基本調査 DATA BOOK



ベネッセ教育総合研究所

# 第5回 学習基本調査 DATA BOOK

## 調査概要

**調査テーマ** 小学生・中学生・高校生の学習に関する意識・実態調査

**調査方法** 学校通しによる自記式質問紙調査

調査時期	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
	1990年9～10月	1996年5～6月	2001年5～6月	2006年6～7月	2015年6～7月

**調査対象** 小学5年生・中学2年生  
全国3地域(大都市(東京23区内)、地方都市(四国の県庁所在地)、郡部(東北地方))

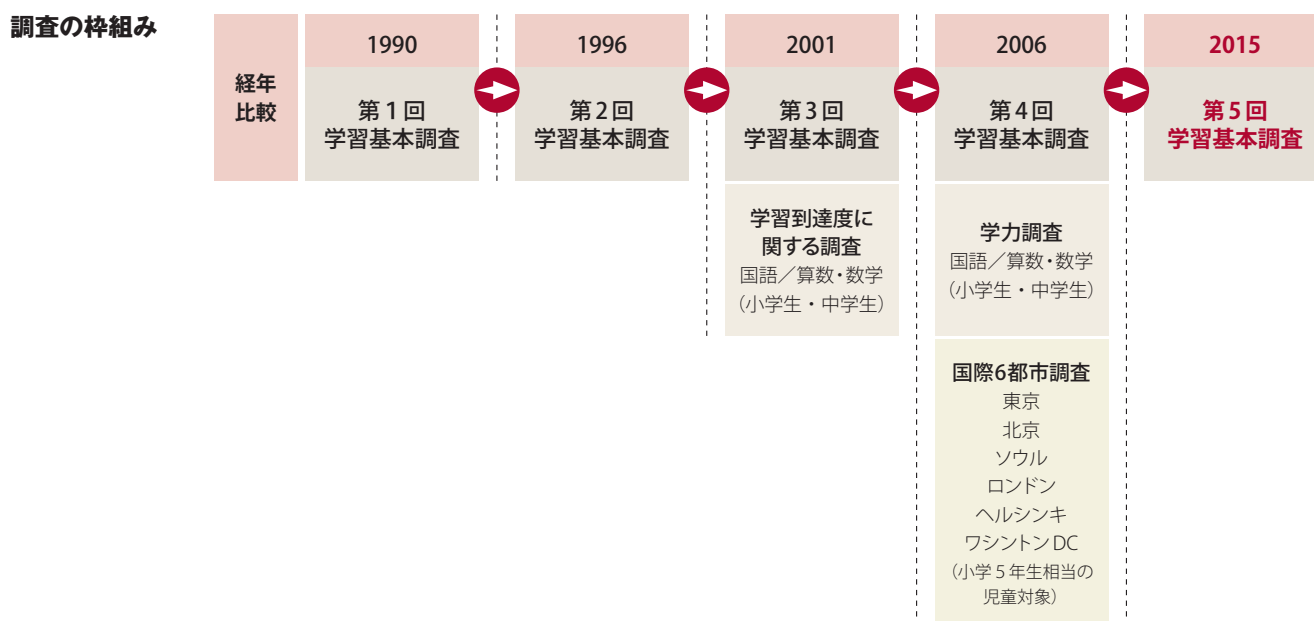
高校2年生(普通科)  
全国4地域(大都市(東京23区内)、および東北・四国・九州地方の都市部と郡部)

※本調査は、経年での比較や地域による違いをみるために有意抽出した同一校(一部代替校含む)に依頼している。  
そのため、数値は全国的な平均値を示すものではない。

有効回収数	1990	1996	2001	2006	2015
小学5年生	2,578	2,665	2,402	2,726	2,601
中学2年生	2,544	2,755	2,503	2,371	2,699
高校2年生	2,005	2,615	3,808	4,464	4,426

**調査項目** 教科の好き嫌い／教科の理解度／家庭学習の時間・内容・様子／勉強の仕方／日常生活の中の学び／授業で好きな学習方法／授業での能動的な学習の経験／通塾／習い事／学習上の悩み／希望する進学段階／メディアの利用／家庭環境 など

※調査テーマ・項目は、ほぼ同じだが、時代の変化に合わせて、追加・削除している。



# 第5回 学習基本調査 DATA BOOK

## 2015年調査 有効回収数

		性別			地域別			合計
		男子	女子	無回答 不明	大都市	地方都市	郡部	
小学5年生	人数	1,299	1,273	29	1,188	649	764	2,601
	%	49.9	48.9	1.1	45.7	25.0	29.4	100
	学校数	/	/	/	15校	7校	11校	33校
中学2年生	人数	1,325	1,360	14	810	884	1,005	2,699
	%	49.1	50.4	0.5	30.0	32.8	37.2	100
	学校数	/	/	/	6校	4校	10校	20校

		性別			地域別			学校の平均偏差値帯別				合計
		男子	女子	無回答 不明	大都市	地方都市	郡部	55以上	50以上 55未満	45以上 50未満	45未満	
高校2年生	人数	2,146	2,262	18	1,195	1,762	1,469	1,521	1,089	923	893	4,426
	%	48.5	51.1	0.4	27.0	39.8	33.2	34.4	24.6	20.9	20.2	100
	学校数	/	/	/	4校	7校	7校	5校	4校	4校	5校	18校

※学校の平均偏差値は「2014年度 進研模試 高2生総合学力記述模試・7月」のデータを使用。

## 調査結果を 読み取る際の 注意点

- 本文中では、小学5年生、中学2年生、高校2年生をそれぞれ小学生、中学生、高校生と表記している。
- 図表において、有効回収数すべてを集計している場合は、人数を示していない。
- 図表で使用している百分率(%)は、小数点第2位を四捨五入して算出している。  
四捨五入の結果、数値の和が100.0にならない場合がある。

## 目次

### Chapter 1 学校での学習

1-1	教科や活動の好き嫌い	4
1-2	授業の理解度	5
1-3	授業で好きな学習方法	6
1-4	能動的な学習(アクティブ・ラーニング)などの実施率	8
1-5	興味・関心の広がり	9

### Chapter 2 家庭での学習

2-1	平日の学習時間・宿題の時間	10
2-2	宿題の種類	13
2-3	家庭学習習慣	14
2-4	テスト勉強の開始時期	15
2-5	家での学習の様子	16
2-6	本やメディアへの接触	17
2-7	学習とICTメディア	18

### Chapter 3 意識

3-1	成績観・学力観	20
3-2	学習の悩み	21
3-3	勉強の効用	22
3-4	社会観・将来観	23

### Chapter 4 校外学習・受験

4-1	小学生の習い事	24
4-2	中学受験	25
4-3	大学入試	26

### TOPICS

TOPICS 1	小中学生の好きな教科は時代とともにどう変わっている? 好きな教科・活動ランキング	27
TOPICS 2	子どもたちの学習時間と教育環境の変化	28

## 1-1 [教科や活動の好き嫌い]

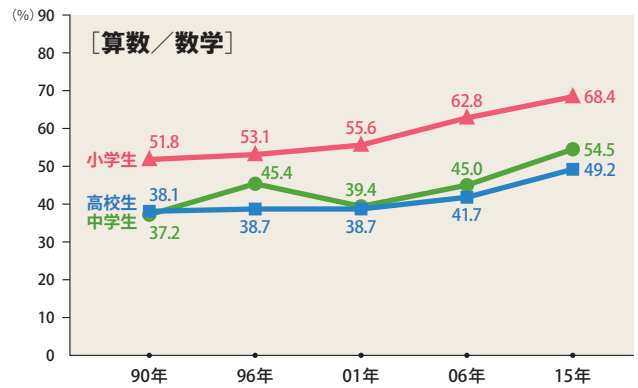
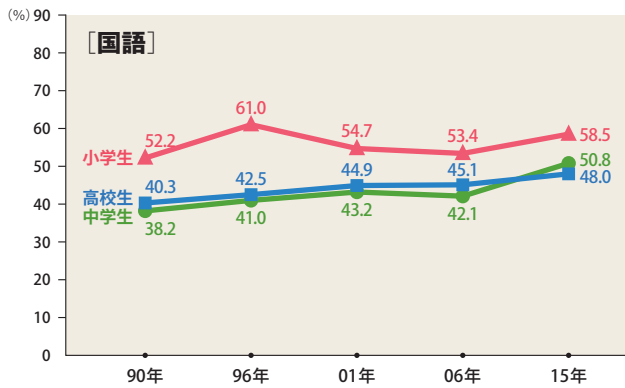
### 「総合的な学習の時間」の「好き」の割合が上昇

多くの教科で「好き」の割合（「とても好き」+「まあ好き」）が上昇した。特に「総合的な学習の時間」は中高生で2006年に比べて約15ポイント上昇し、中学生の「社会」も16.7ポイント上昇している。また、1990年からみると、「算数・数学」が、小・中・高校生のいずれにおいても10ポイント以上増加した。「理科」については、小学生と中学生の「好き」の割合の差が他教科に比べて大きくなっている。

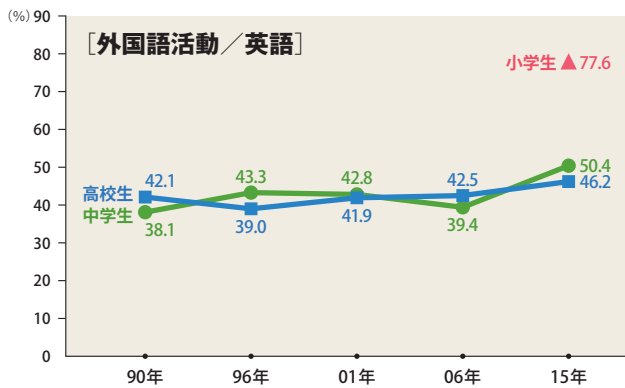
**Q** あなたは、次の教科や学習の時間の勉強がどのくらい好きですか。

図1-1 好きな教科(小学生・中学生・高校生)

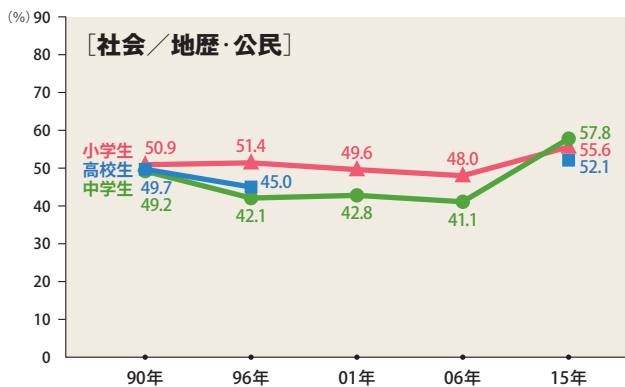
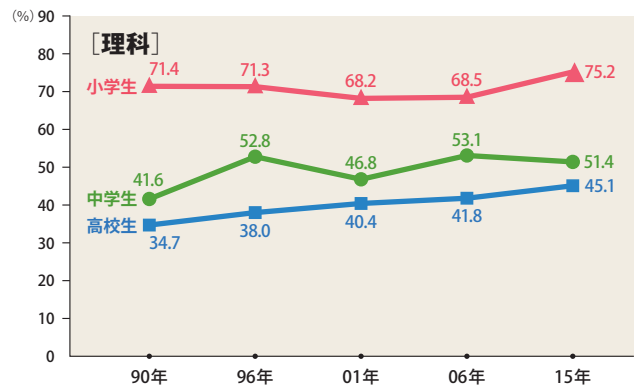
「とても好き」+「まあ好き」の%



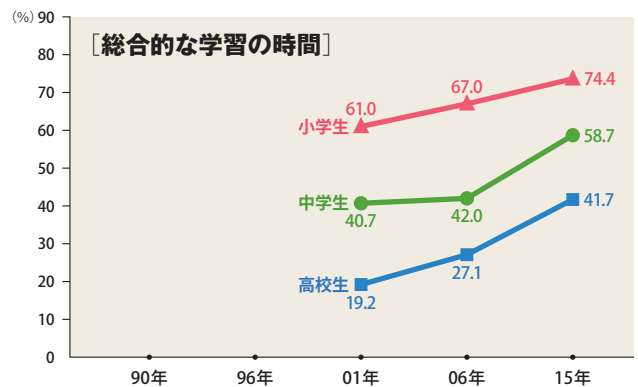
注) 小学生は「算数」。中学生・高校生は「数学」である。



注) 小学生は「外国語(英語)活動」、中学生・高校生は「英語」である。  
小学生は15年のみならずねている。



注) 高校生は、90年は「社会」、96年と15年は「地歴・公民」としてたずねている。  
01年・06年は「地歴」「公民」に分けてたずねているため、表示はしていない。



注) 01年のみ、選択肢に「履修したことがない」が含まれるため、「履修したことがない」を除いて集計。

## 1-2 [授業の理解度]

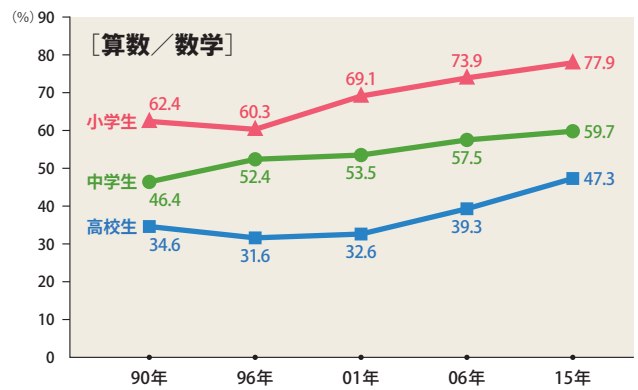
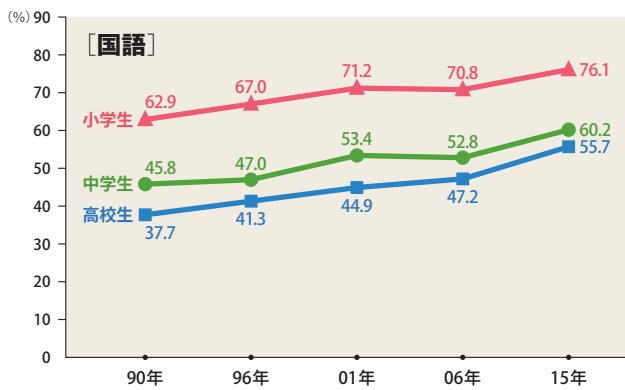
## 小・中・高校生とも授業の理解度が高まっている

小・中・高校生とも、ほとんどの教科で授業の理解度（「ほとんどわかっている」+「70%くらいわかっている」の%）が、2006年より上昇している。1990年からみると、下図に示した5教科の中で、中学生の「理科」以外はすべて10ポイント以上上昇している。「理科」は、前頁の「好き」の割合と同様に、他教科に比べて小学生と中学生の間の理解度の差が大きくなっており、小学生と中学生の間にギャップがあることが読み取れる。

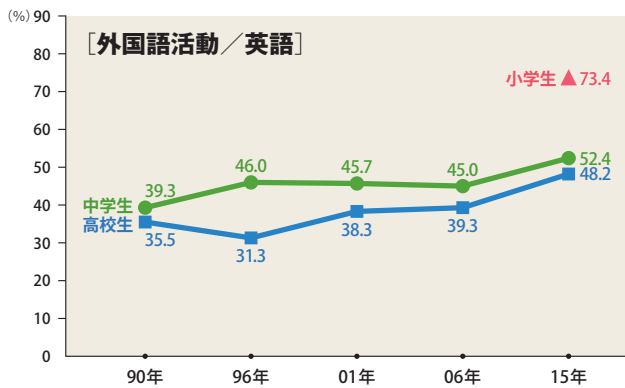
Q 学校の授業をどのくらい理解していますか（わかっていますか）。

図1-2 授業の理解度（小学生・中学生・高校生）

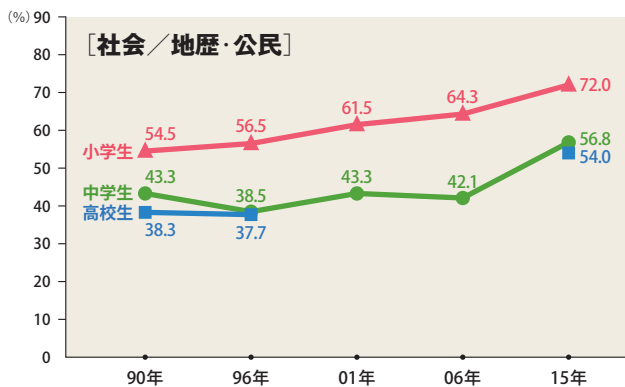
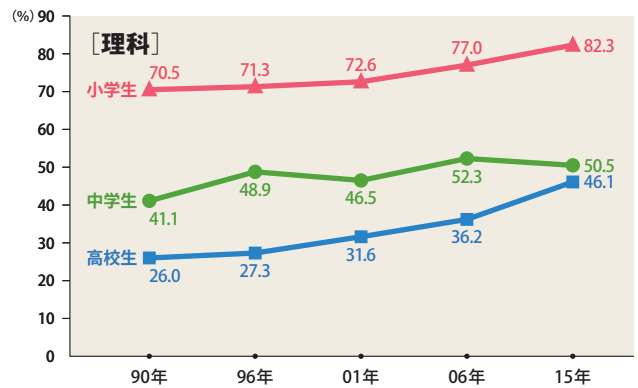
「ほとんどわかっている」+「70%くらいわかっている」の%



注) 小学生は「算数」。中学生・高校生は「数学」である。



注) 小学生は「外国語（英語）活動」、中学生・高校生は「英語」である。  
小学生は15年のみならずねている。



注) 高校生は、90年は「社会」、96年と15年は「地歴・公民」としてたずねている。  
01年・06年は「地歴」「公民」に分けてたずねているため、表示はしていない。

## 1-3 [授業で好きな学習方法]

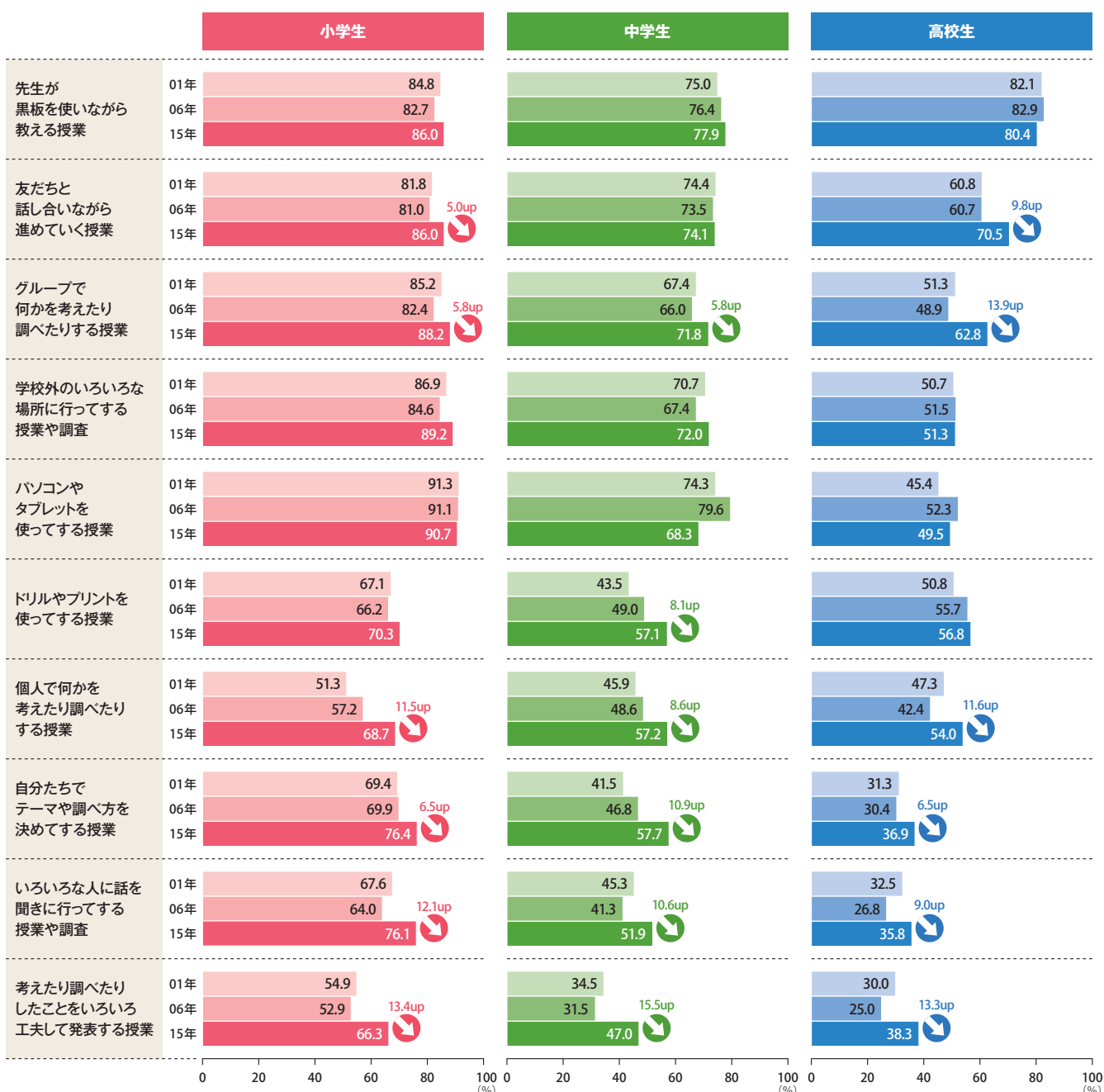
## アクティブ・ラーニング型の授業を「好き」という回答が増えている

2006年に比べると、小・中・高校生ともアクティブ・ラーニング型の授業の多くで「好き」の割合（「とても好き」＋「好き」、以下同）が増えている。特に「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表する授業」は、いずれの学校段階でも「好き」が10ポイント以上増加した。しかし、中学生と高校生では、まだ5割に満たない。中学生で「好き」がもっとも高いのは「先生が黒板を使いながら教える授業」だが、次いで「友だちと話し合いながら進めていく授業」などのグループ活動に関する項目が高くなっている。

Q あなたは、次にあげる学校の勉強方法が、どのくらい好きですか。

図1-3 授業で好きな学習方法（小学生・中学生・高校生）

「とても好き」＋「好き」の%



注1) 小学生は「とても好き」「好き」「好きでない」「ぜんぜん好きでない」の4つの選択肢、中学生・高校生はそれに「やっていない」を含めた5つの選択肢でたずねている。

注2) 「パソコンやタブレットを使ってする授業」は01年・06年では「パソコンを使ってする勉強」としてたずねている。

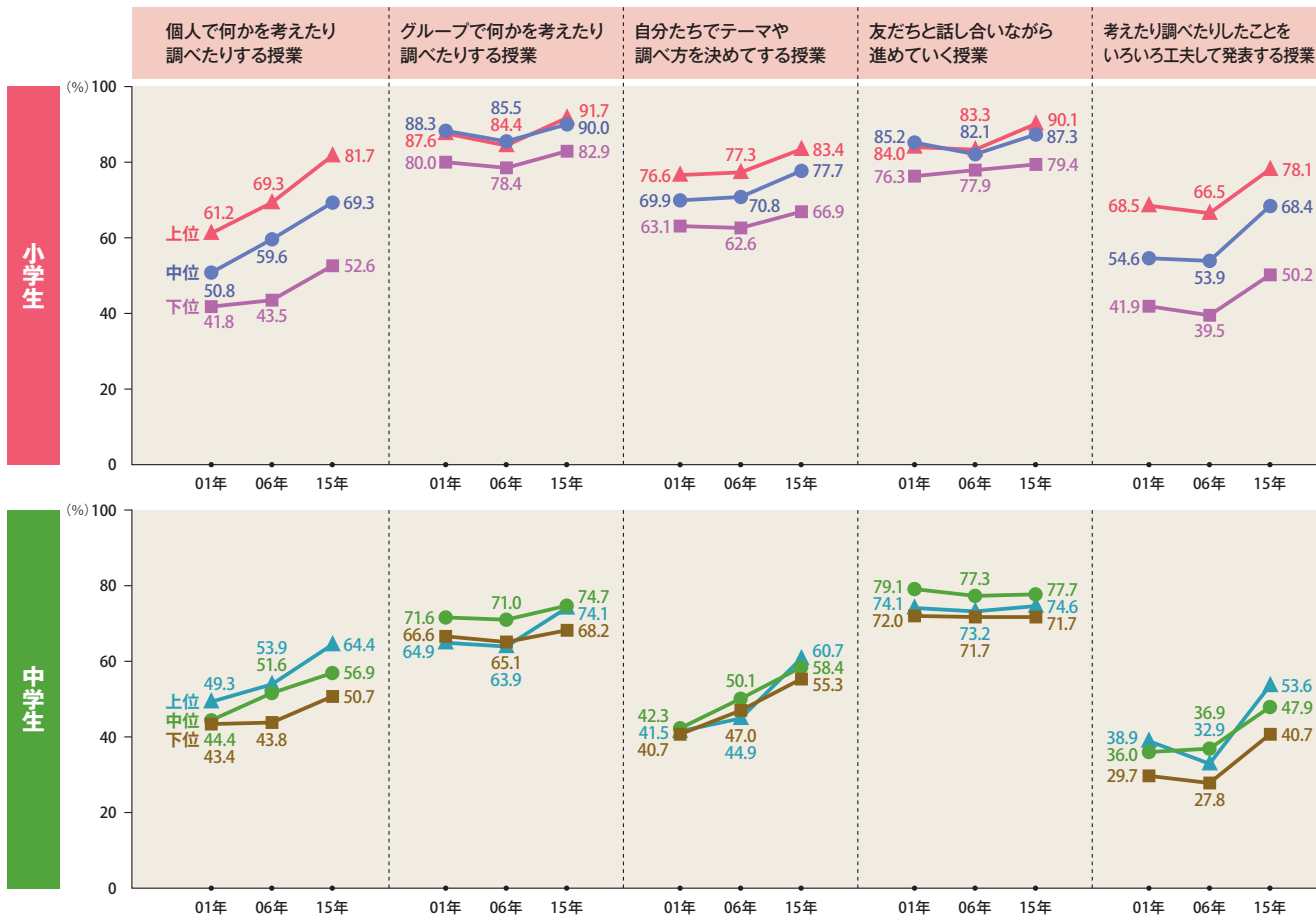
注3) ↑↓↘の数値は、06年に比べて約5ポイント以上アップしているものについて、そのポイントの差を表す。

1-3 [授業で好きな学習方法]

アクティブ・ラーニング型の授業は小学生より中学生で「好き」が少なく、成績層別の差も縮まる

図1-4 授業で好きな学習方法（小学生・中学生、成績自己評価別・5項目）

「とても好き」+「好き」の%

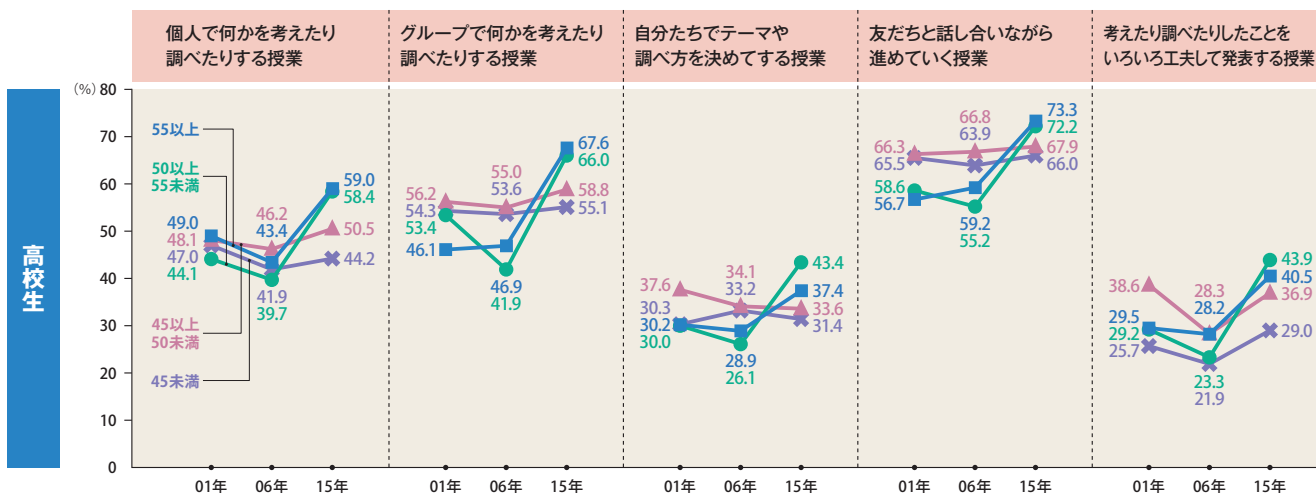


注1) 小学生は「とても好き」「好き」「好きでない」「ぜんぜん好きでない」の4つの選択肢、中学生はそれに「やっていない」を含めた5つの選択肢でたずねている。  
 注2) 成績自己評価は、「現在の総合的な成績は、学年の中でどのくらいですか」の項目に「1(上のほう)～3」と回答した人を「上位」、「4(真ん中)」を「中位」、「5～7(下のほう)」を「下位」としている。

高校生は、偏差値50以上の学校の生徒で「好き」の増加幅が大きい

図1-5 授業で好きな学習方法（高校生、学校偏差値帯別）

「とても好き」+「好き」の%



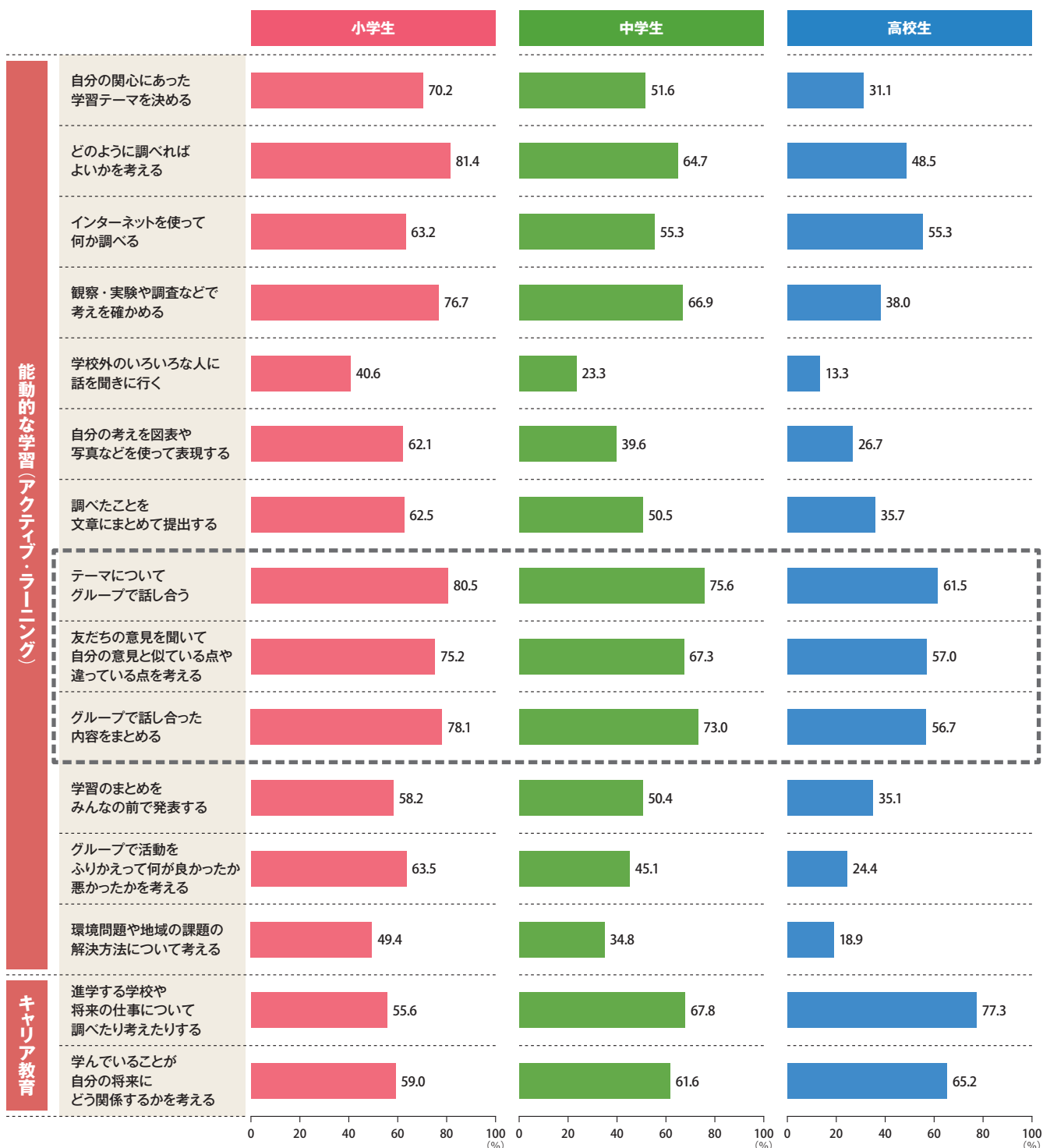
## 1-4 [能動的な学習(アクティブ・ラーニング)などの実施率]

### グループ学習は高校生も6割程度が「よくする」または「時々する」と回答

能動的な学習活動をどのくらい行っているのかをたずねたところ、全体に小学生が高く、学校段階が上がるほど低くなっている。その中でも「テーマについてグループで話し合う」などグループ学習に関することは高校でも6割程度が「する」「よくする」+「時々する」と回答している。また、キャリア教育・進路学習に関する2項目については、高校生の方が実施率が高くなっている。

**Q** あなたは授業の中で、次のような学習をどのくらい行っていますか。

図1-6 能動的な学習・キャリア教育の実施率(小学生・中学生・高校生) 「よくする」+「時々する」の%





## 1-5 [興味・関心の広がり]

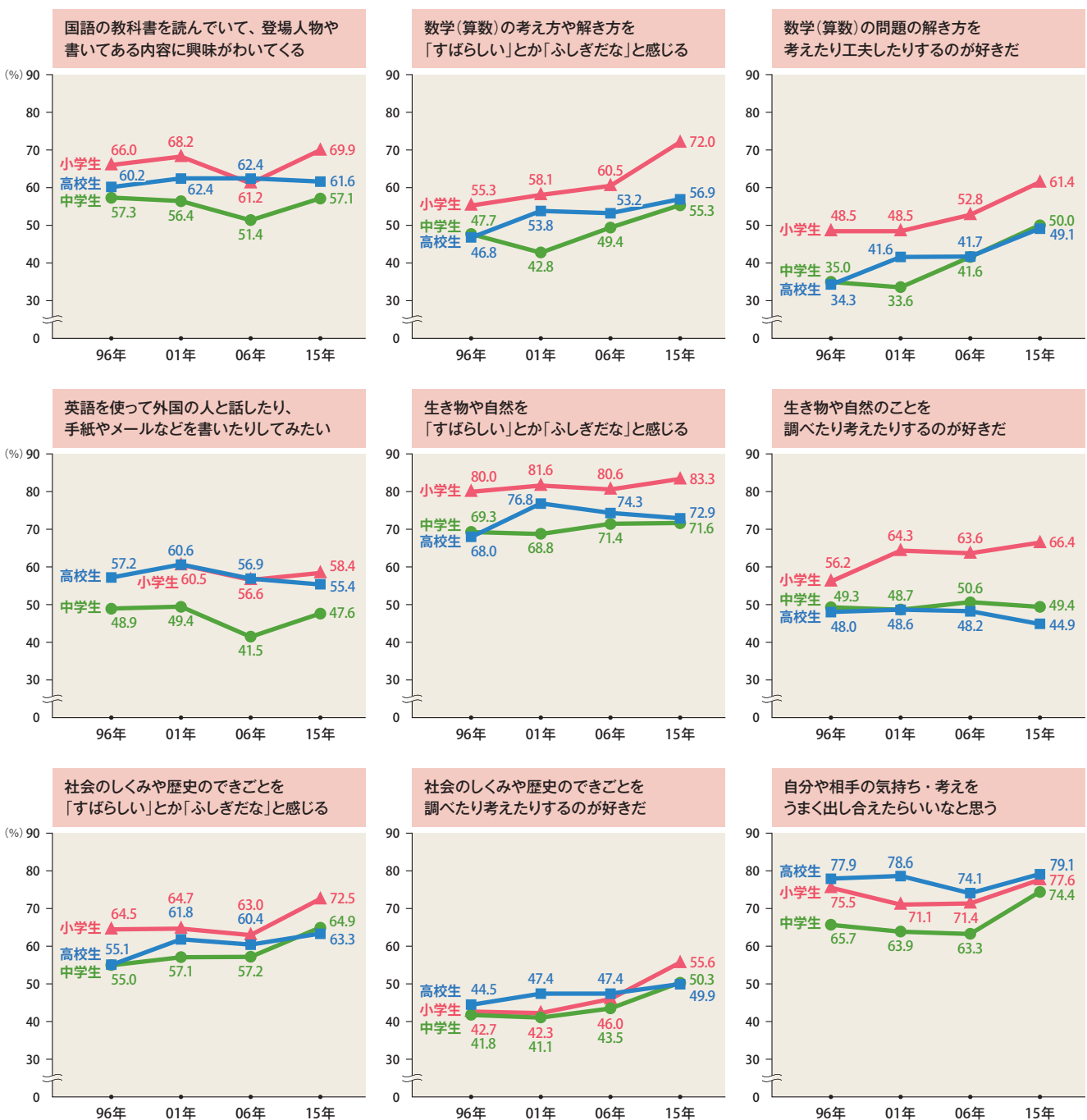
## 小学生で「算数」への興味・関心が上昇

勉強をしていて感じることを、小学生は「算数の考え方や解き方を『すばらしい』とか『ふしぎだな』と感じる」が2006年比で11.5ポイントアップしており、その他の項目も上昇しているものが多い。中学生も、2006年比の変化はほぼ小学生と同様の傾向であるが、「自分や相手の気持ち・考えをうまく出し合えたらいいなと思う」の上昇幅が大きく、11.1ポイントアップしている。高校生は小中学生より変化の幅が小さく、ほぼ横ばいのものが多い。

Q あなたは勉強していて、次のように感じることはありませんか。

図1-7 興味・関心の広がり(小学生・中学生・高校生)

「よくある」+「時々ある」の%



注) 算数・数学に関する項目は、小学生は「算数」として、中学生・高校生は「数学」としてたずねている。

## 2-1 [平日の学習時間・宿題の時間]

### 小中学生の学習時間は2001年を底に引き続き増加傾向、高校生も増加に転じる

小中学生の授業以外の平日の平均学習時間は、2001年を底に前回2006年に引き続き増加傾向にある。一方、高校生の平日の平均学習時間は一貫して減少していたが、2015年で増加に転じた。また、学習時間のうち宿題の時間もたずねたところ、宿題の時間は小・中・高校生ともに2006年と比べて増加しており、学習時間の増加には宿題の影響があると考えられる。

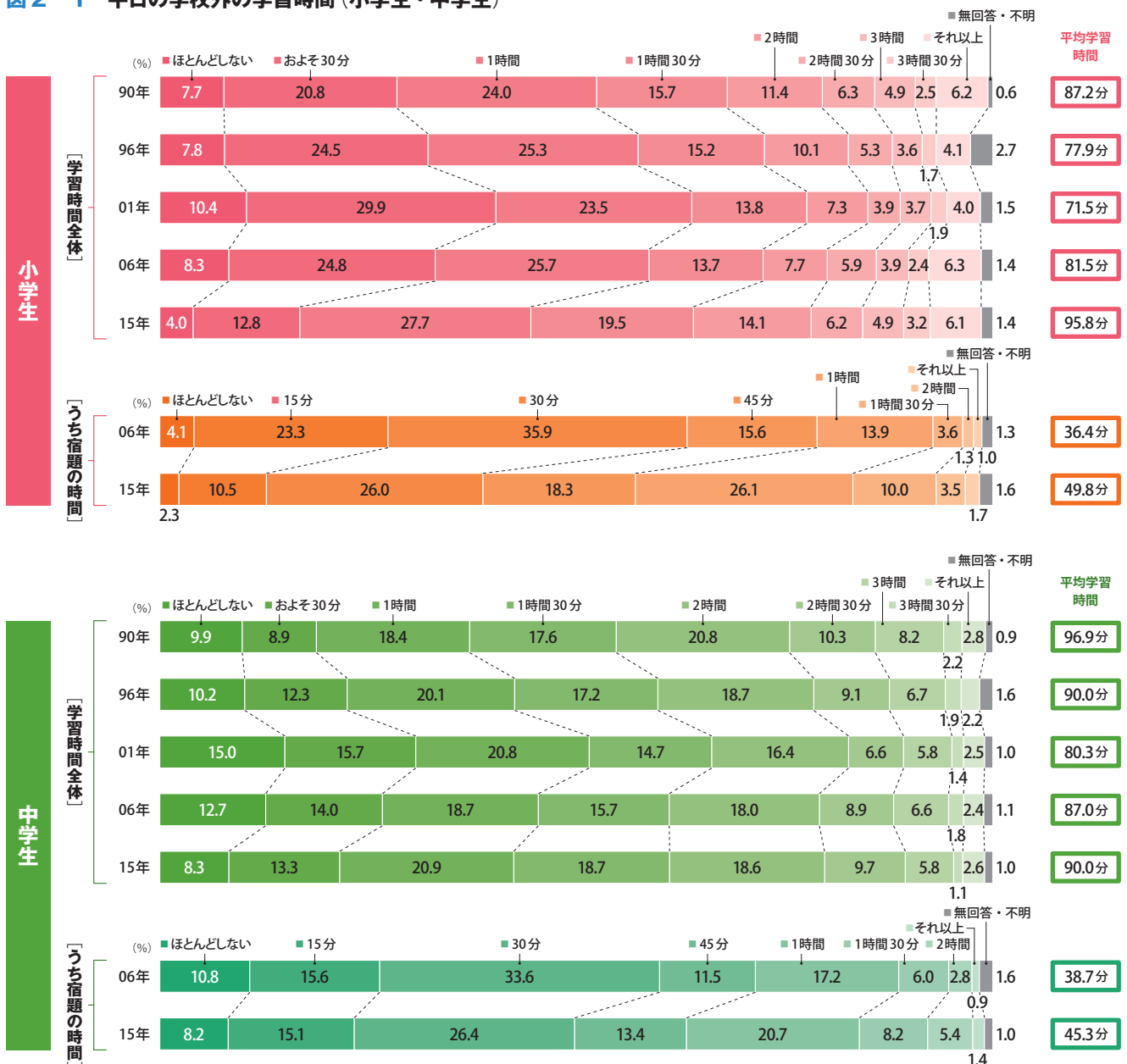
Q1

あなたはふだん(月曜日～金曜日)、学校での授業以外に1日にだいたい何時間くらい勉強していますか。学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間も含めてください。

Q2

Q1で答えた勉強時間のうち、学校の宿題や課題をする時間は何時間くらいですか。

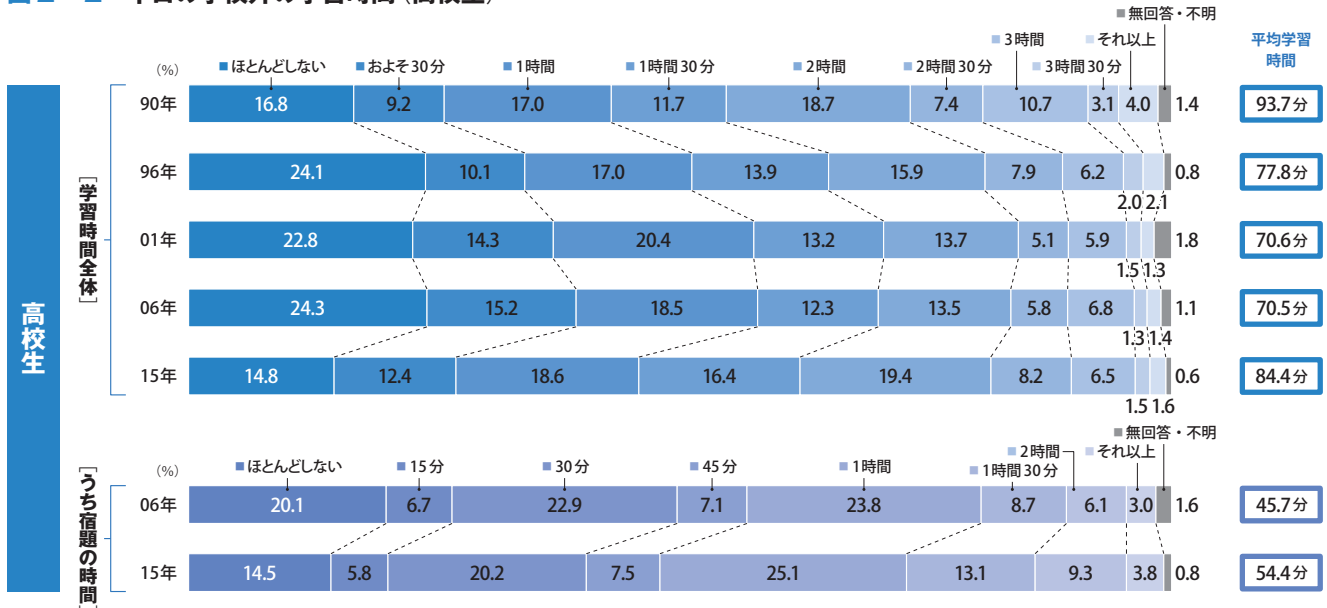
図2-1 平日の学校外の学習時間(小学生・中学生)



注1) 平均学習時間は「ほとんどしない」を0分、「3時間30分」を210分、「それ以上」を240分(宿題時間は「2時間」を120分、「それ以上」を150分)のように置き換えて算出した。  
 注2) 小学生は、「学校での授業以外に」の部分に「家に帰ってから」としてたずねている。

2-1 [平日の学習時間・宿題の時間]

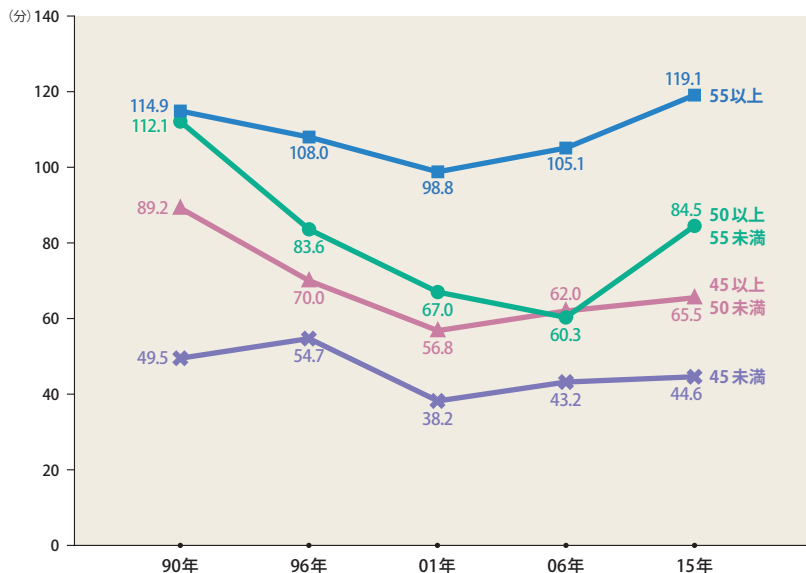
図2-2 平日の学校外の学習時間（高校生）



高校生は中間層の学習時間が増加

学校外の平均学習時間を学校の平均偏差値帯別にみると、「50以上」の層で上昇傾向がみられ、特に1990年から2006年まで下がり続けていた「50以上55未満」の層が2015年に大きく上昇した。

図2-3 平日の学校外の平均学習時間（高校生・学校偏差値帯別）



注1) 平均学習時間は「ほとんどしない」を0分、「3時間30分」を210分、「それ以上」を240分（宿題時間は「2時間」を120分、「それ以上」を150分）のように置き換えて算出した。  
 注2) 90年は、学校の平均偏差値ではなく、学校の進学実績を用いて区分している。

2-1 [平日の学習時間・宿題の時間]

小中学生で学習時間に占める宿題の割合が増えている

平日の学習時間に占める宿題の割合は、2006年比で、小学生で7.3ポイント、中学生で6.0ポイント増加した。これを地域別にみると、宿題の増加幅は地域によって異なっており、地域による宿題時間の差が広がっている。高校生は、宿題の割合は65%で前回と変わらないが、宿題の増加と並行して学習時間全体が増えている。これを学校の偏差値帯別にみると、「偏差値50以上55未満」の高校の生徒の平均宿題時間が20分程度増加しており、全体の学習時間の増加幅も大きくなっている。

図2-4 平日の学習時間のうち、宿題をする時間（小学生・中学生、地域別）

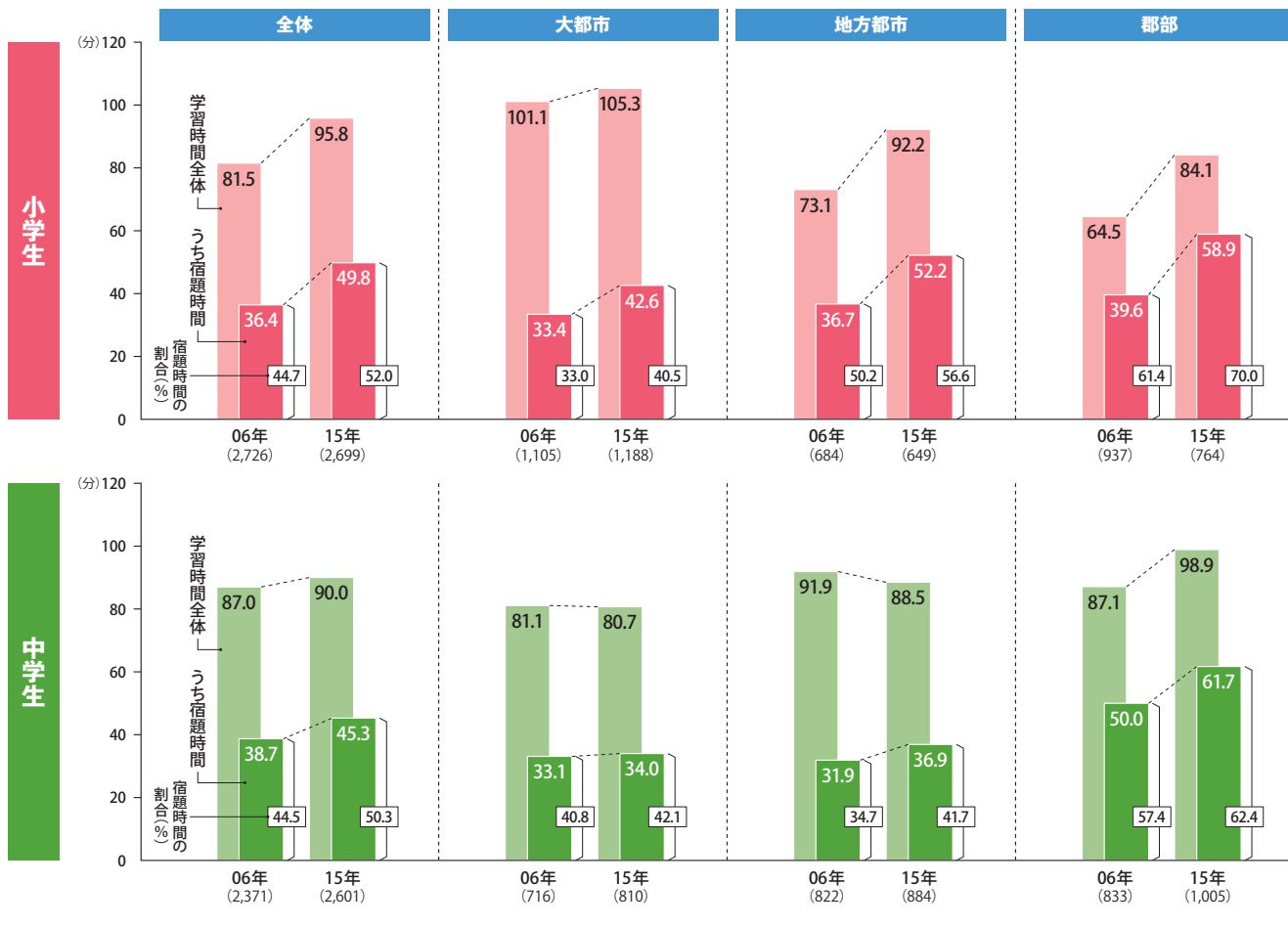
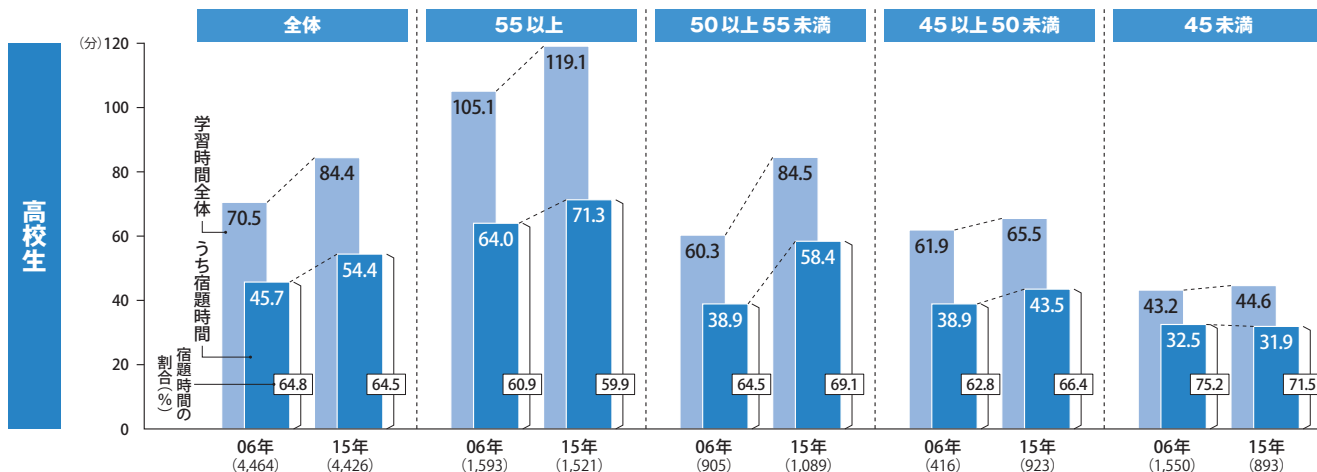


図2-5 平日の学習時間のうち、宿題をする時間（高校生、学校偏差値帯別）



注1) 平均学習時間は「ほとんどしない」を0分、「3時間30分」を210分、「それ以上」を240分（宿題時間は「2時間」を120分、「それ以上」を150分）のように置き換えて算出した。  
 注2) ( )内の数値はサンプル数。

## 2-2 [宿題の種類]

### 小中学生に自学ノートが広がっている

宿題の種類と頻度をたずねたところ、小学生では「プリントやドリル」が多く、週4日以上している割合が52.6%、次いで「自学ノートなど自主的な学習」も42.6%と高い。中学生では「自学ノートなど自主的な学習」がもっとも多く、週4日以上が53.4%と半数を超えている。高校生は3分の1が週4日以上「プリントやドリル」をすると回答している(図2-6)。また、高校生は、「出された宿題をきちんとやっていく」との回答が1996年から漸増しており、小中学生の値に近づきつつある(図2-7)。

**Q** 学校の宿題についてうかがいます。あなたはふだん、次のような宿題をどのくらいしていますか。

図2-6 宿題の内容(小学生・中学生・高校生)

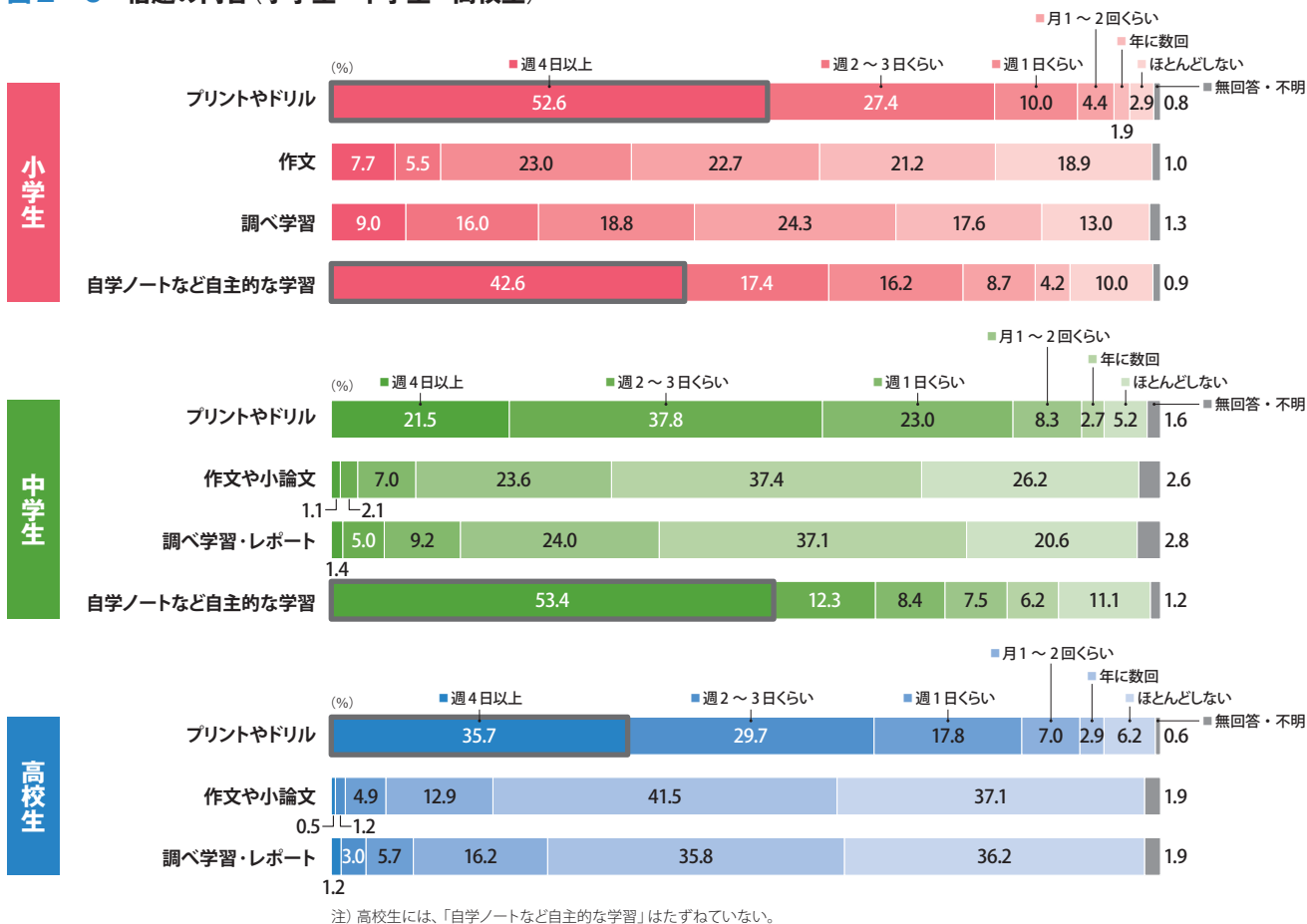
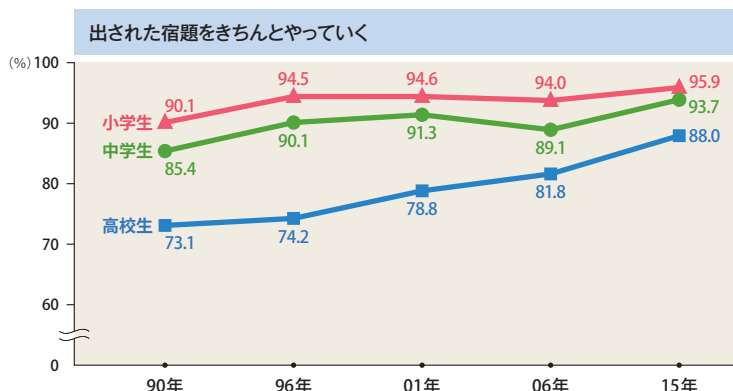


図2-7 「出された宿題をきちんとやっていく」割合(小学生・中学生・高校生)

「あてはまる」+「まああてはまる」の%



## 2-3 [家庭学習習慣]

## ほとんど毎日勉強する中学生・高校生が増加

中学生の家庭学習の平均日数は2001年を底にV字型の推移となり、平均週4.1日家で勉強をしている。高校生の家庭学習の平均日数も週4.1日で、調査開始以来2015年に初めて増加した。「ほとんど毎日する」は、中学生・高校生のいずれも2006年と比べて大幅に増加し(中学生は11.0ポイント、高校生は12.9ポイント)、一方で「家ではほとんど勉強しない」が減少(中学生8.0ポイント、高校生12.3ポイント)し、調査開始以来もっとも少なくなっている。

Q あなたはふだん、家でどのくらい勉強をしますか。 ※学習塾や予備校、家庭教師との学習は除きます。

図2-8 家庭学習の日数(中学生・高校生)

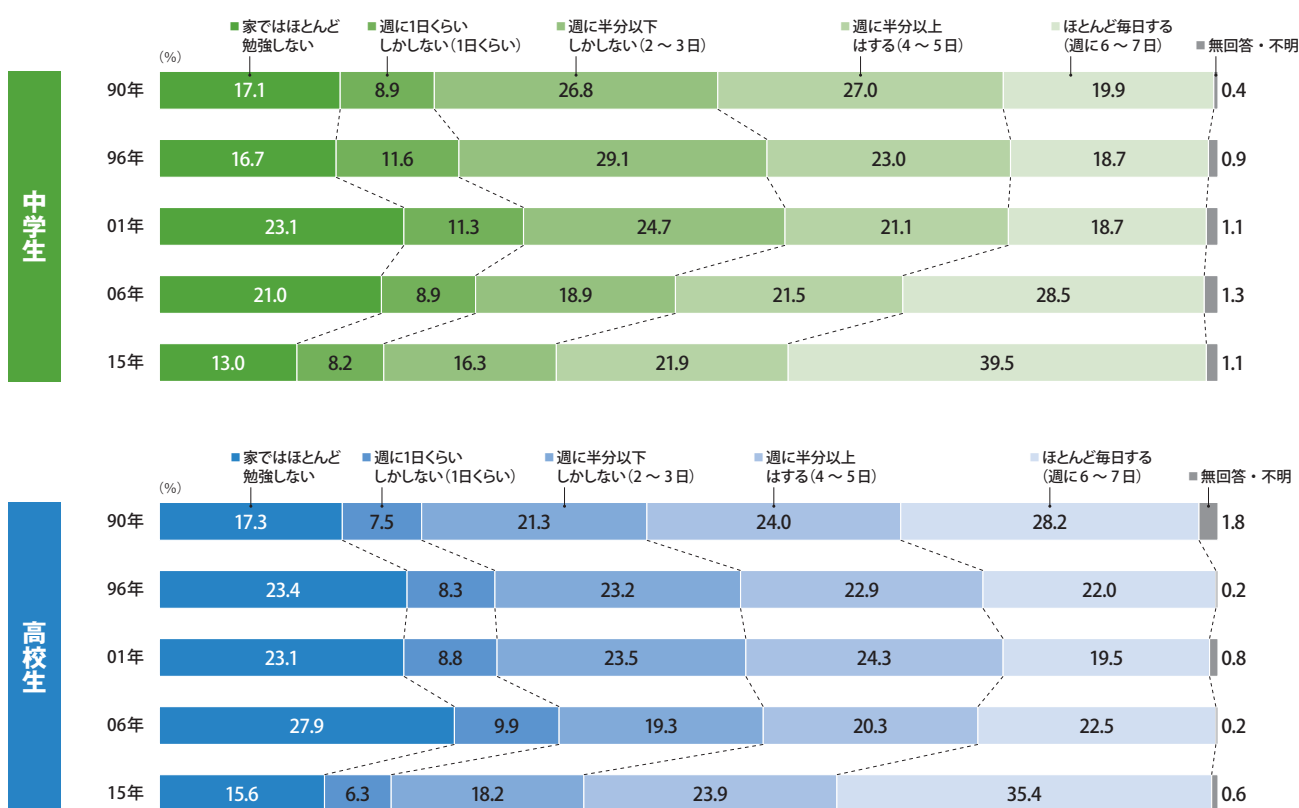
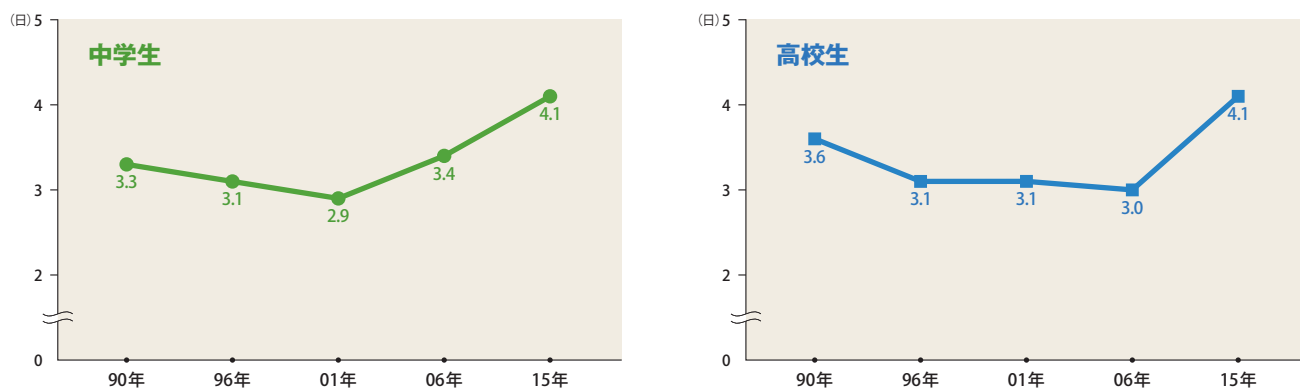


図2-9 家庭学習の週あたりの平均日数(中学生・高校生)



注) 家庭学習の平均日数は「ほとんど毎日する(週に6~7日)」を6.5日、「家ではほとんど勉強しない」を0日のように置き換えて算出した。

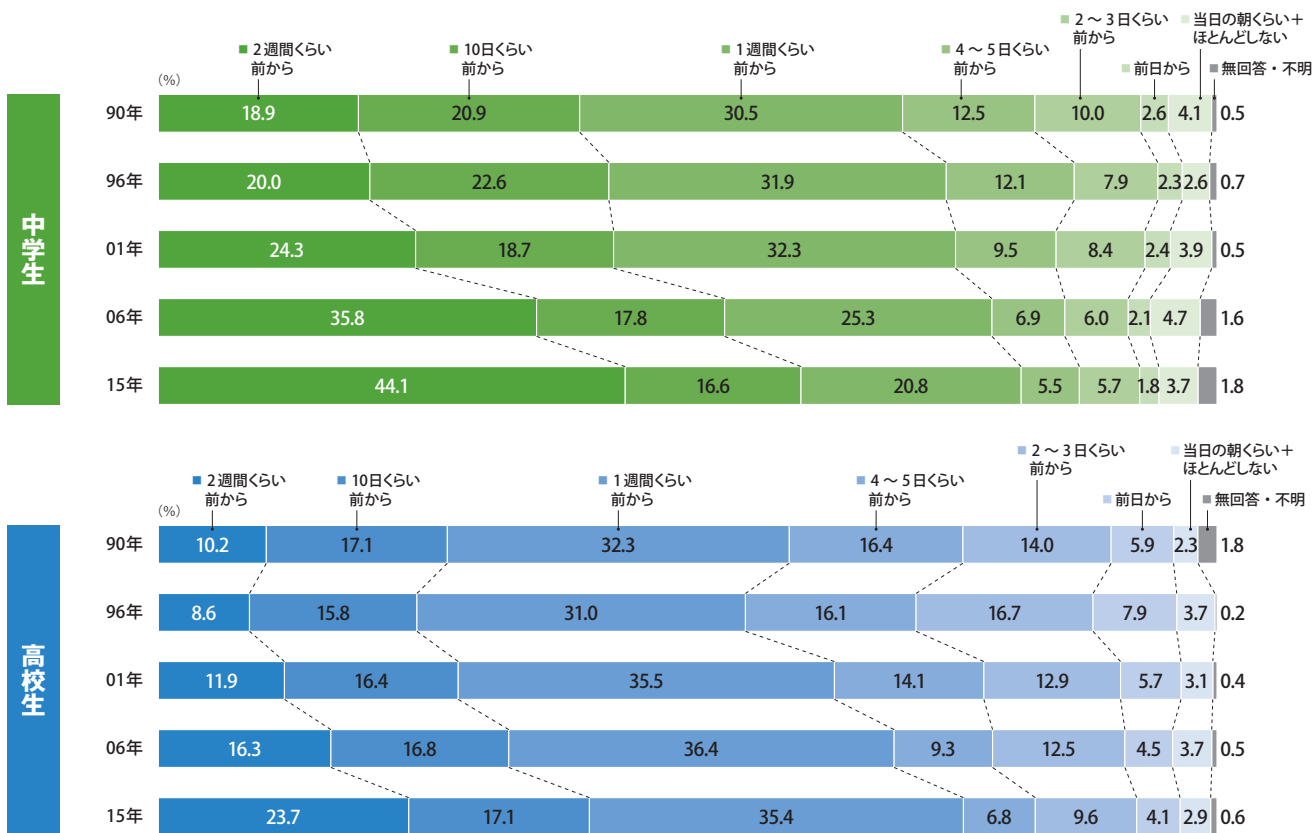
## 2-4 [テスト勉強の開始時期]

### テスト勉強を「2週間くらい前から」始める中学生が4割、高校生が2割に増加

テスト勉強の開始時期は、中学生では「2週間くらい前から」が44.1%ともっとも多く、1990年と比べると25.2ポイント増加した。高校生では「1週間くらい前から」が35.4%ともっとも多く、1996年を境に「2週間くらい前から」「10日くらい前から」「1週間くらい前から」が増加している(3項目合計で1996年比20.7ポイント増)。また、勉強のタイプとして「毎日こつこつ勉強する」のか「試験の前にまとめて勉強する」のかをたずねたところ、中学生では、「試験の前にまとめて」の方が多いものの、「毎日こつこつ」が徐々に増えてきている(図2-11)。

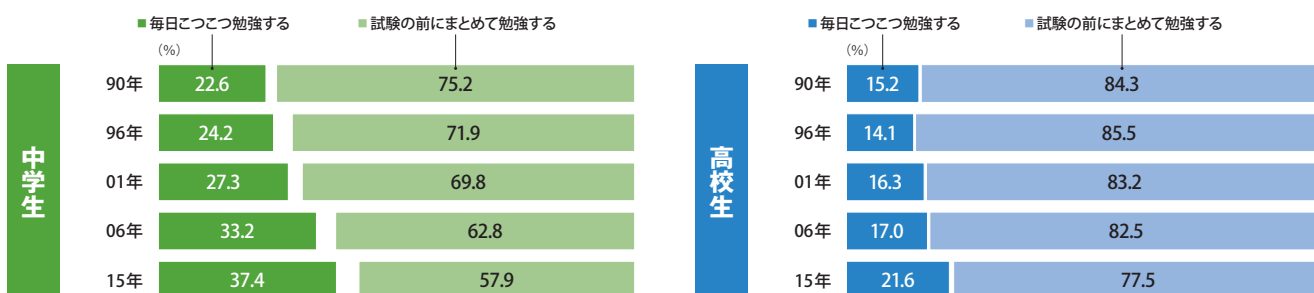
Q テスト(定期考査)前には、あなたはいつ頃からテスト勉強を始めますか。

図2-10 テスト勉強の開始時期(中学生・高校生)



Q あなたの勉強の仕方を分類するとすれば、どんなタイプになると思いますか。どちらかといえば近いほうのタイプに○をつけてください。

図2-11 勉強のタイプ:「毎日こつこつ」か「試験の前にまとめて」か(中学生・高校生)



注) 無回答・不明は省略している。そのため、足しても100.0%にならない。

## 2-5 [家での学習の様子]

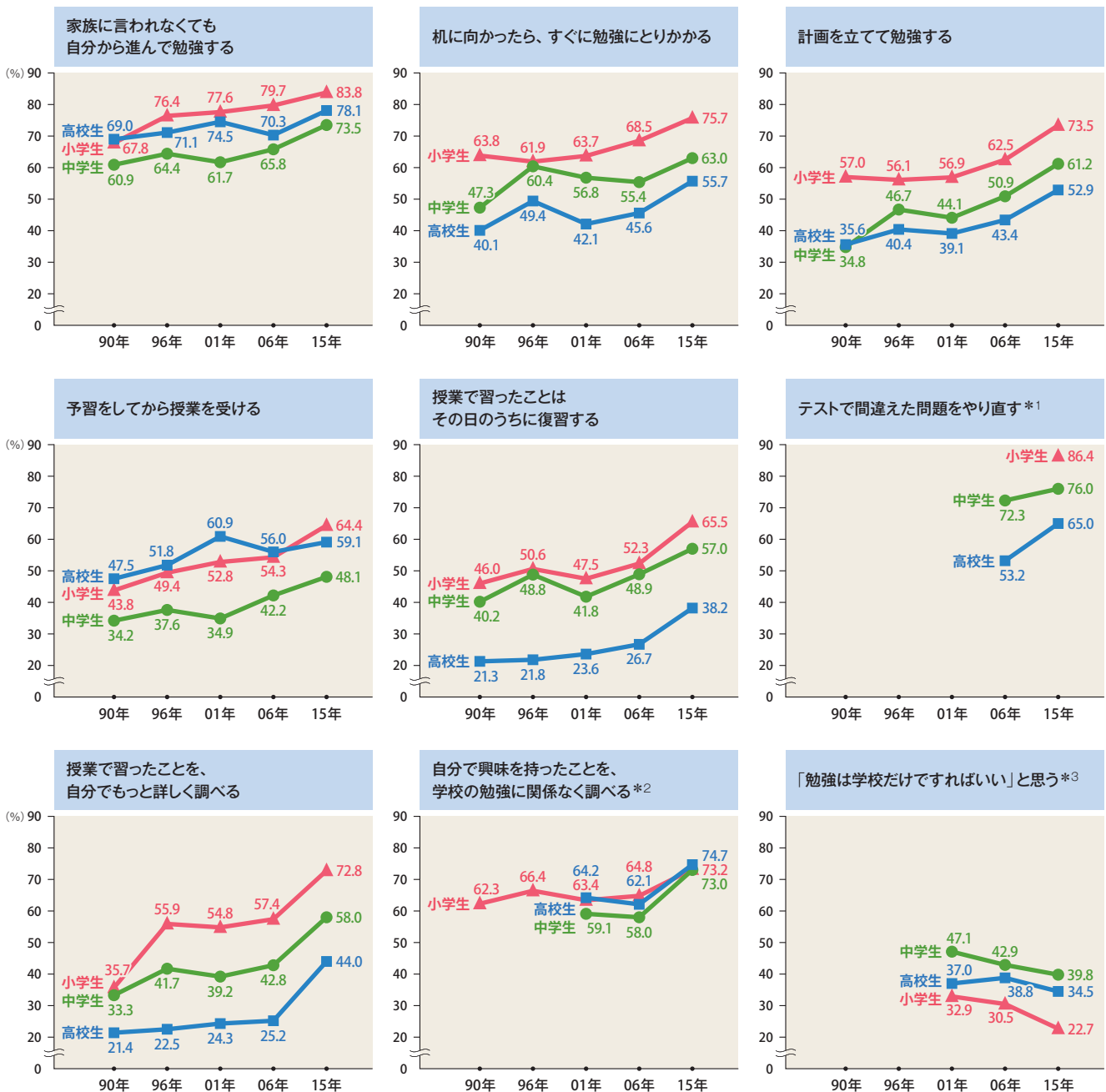
### 「授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる」が2006年比で15ポイント以上増加

家での学習の様子や意識についてたずねたところ、2006年比でほとんどの項目が上昇した。特に上昇幅が大きいのが、「授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる」「自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる」「計画を立てて勉強する」「授業で習ったことは、その日のうちに復習する」であった。1990年からみると家での学習によりまじめに取り組む児童・生徒が増加している。

Q 家での勉強の様子についてうかがいます。

図2-12 家での勉強の様子（小学生・中学生・高校生）

「あてはまる」+「まああてはまる」の%



注) \*1の項目は中学生・高校生は06年から、小学生は15年のみたずねている。

\*2の項目は中学生・高校生は01年からたずねている。

\*3の項目は01年からたずねている。



## 2-6 [本やメディアへの接触]

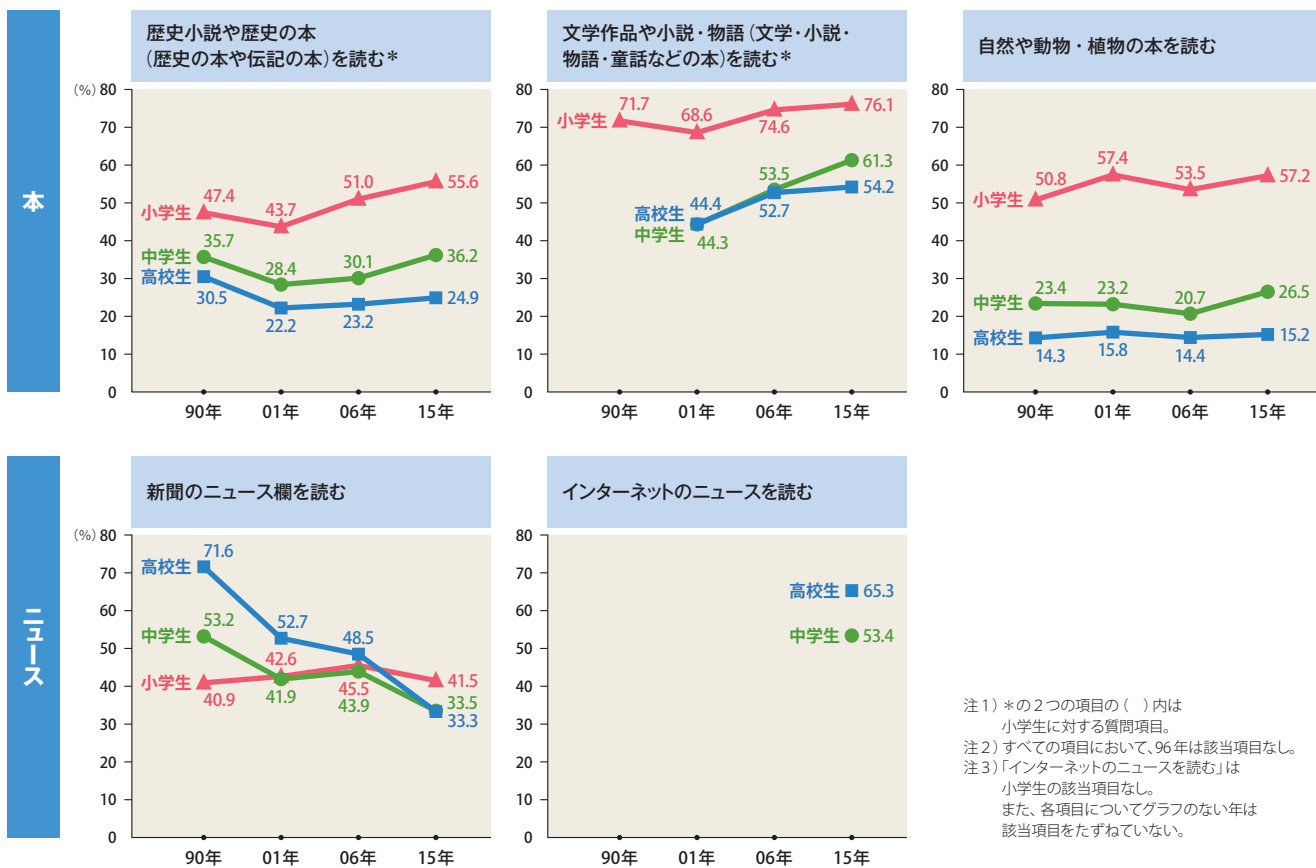
### 新聞のニュース欄を読む高校生が1990年から半減し、ネットのニュースが65%に

読書をしている割合は、中学生で、歴史や文学、自然や動植物など、どのジャンルについても5ポイント程度増えている。新聞のニュース欄を読む割合は、高校生で1990年は71.6%だったのに対し2015年は33.3%に減っているが、一方でインターネットのニュースを読む割合が65.3%となっている。また、テレビの視聴時間も2001年から大きく減少傾向にある(図2-14)。

**Q** あなたは、ふだん(学校の授業や宿題以外で)次のことをどのくらいしますか。

図2-13 読書や情報の入手(小学生・中学生・高校生)

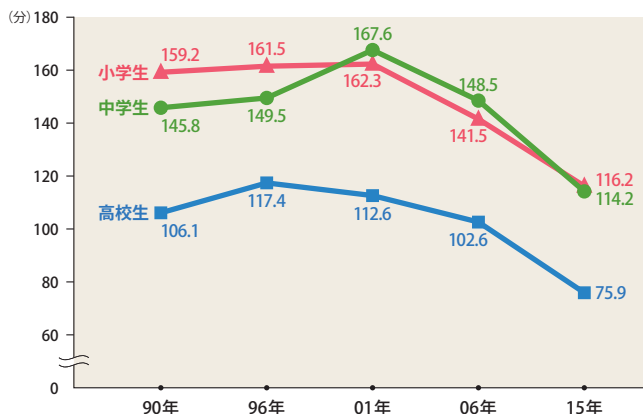
「よくする」+「時々する」の%



注1) \*の2つの項目の( )内は小学生に対する質問項目。  
 注2) すべての項目において、96年は該当項目なし。  
 注3) 「インターネットのニュースを読む」は小学生の該当項目なし。  
 また、各項目についてグラフのない年は該当項目をたずねていない。

**Q** ふだん(月曜日～金曜日)テレビを1日に何時間くらい見ますか。

図2-14 平日のテレビの平均視聴時間(小学生・中学生・高校生)



注1) 選択肢は「ほとんど見ない」「およそ30分」「1時間」「1時間30分」「2時間」「2時間30分」「3時間」「3時間30分」「それ以上」としている。  
 注2) テレビの視聴時間の平均値は「ほとんど見ない」を0分、「3時間」を180分、「それ以上」を240分のように置き換えて算出した。

## 2-7 [学習とICTメディア]

### 小・中・高校生の半数以上が勉強にスマートフォンやタブレット、パソコンを使っている

小・中・高校生の半数以上（小55.5%、中49.9%、高60.5%）が勉強にICTメディアを使うことがある（「よくある」+「時々ある」の%）と回答。中高生にその内容についてたずねたところ、「英語や国語、古典の辞書を使う」がもっとも多く（中60.1%、高72.4%（「よくある」+「時々する」の%、以下同））、次いで「調べ学習やレポートをまとめるために情報収集をする」（中59.9%、高66.3%）、「メールやチャットで友だちにわからないところを質問する」（中51.2%、高57.8%）と続く。

**Q** あなたは、パソコンやスマートフォン、タブレットなどを使って勉強することがありますか（学校の授業での利用は含めません）。

**Q** あなたは、パソコンやスマートフォン、タブレットなどを使って次のようなことをしますか。  
※「よくある」「時々ある」の回答者のみ

図2-15 ICTメディアの学習利用の有無（小学生・中学生・高校生）

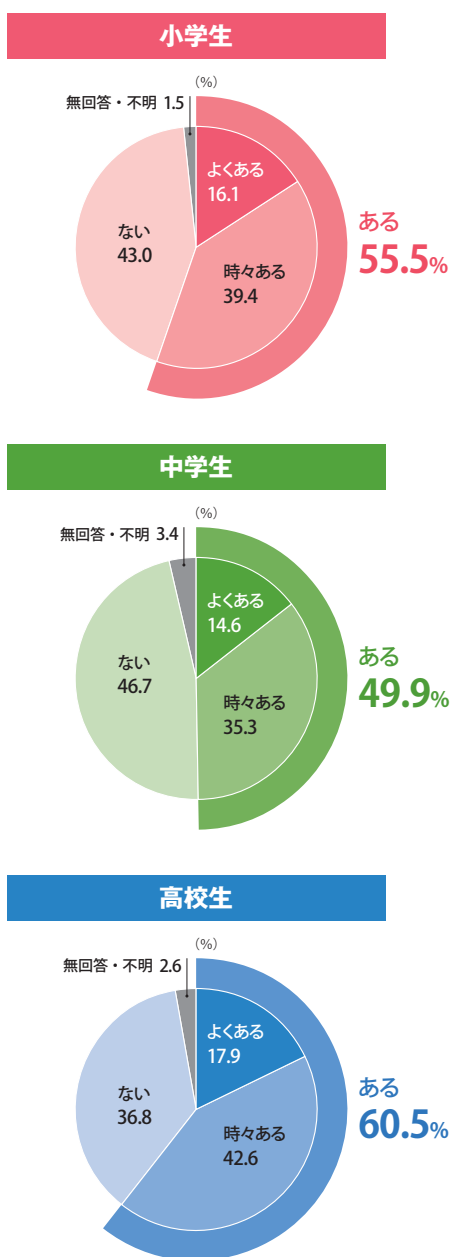
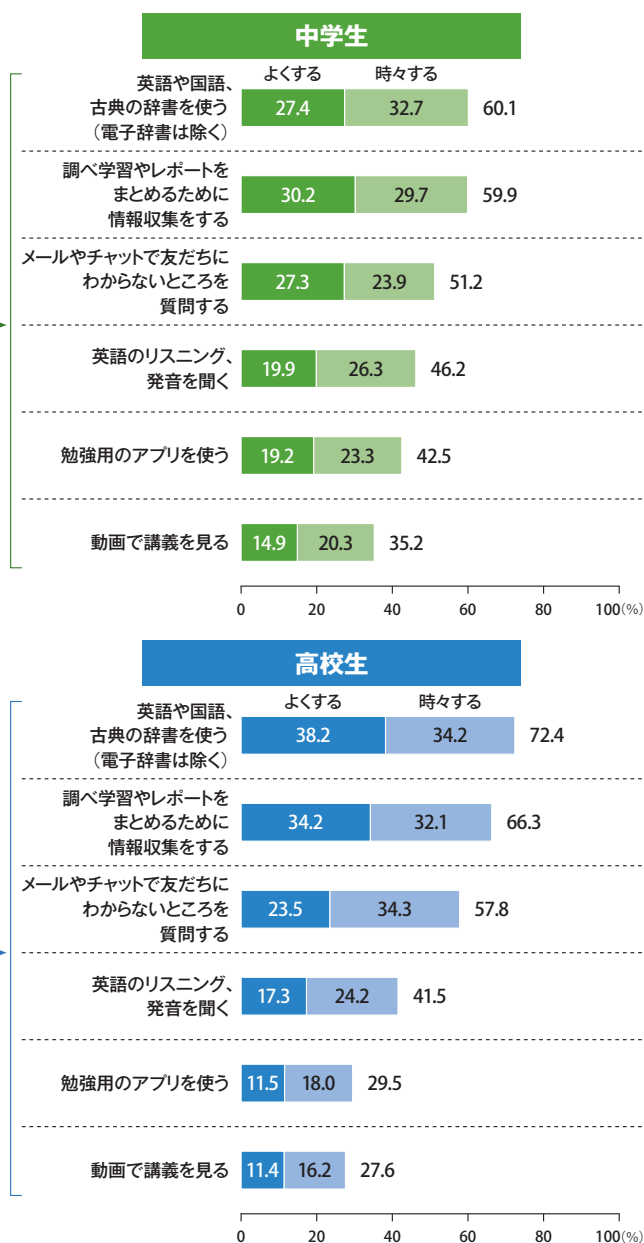


図2-16 ICTメディアの学習利用の内容（中学生・高校生 [利用者のみ]）



注1) 小学生はたずねていない（以下同様）。

注2) 対象は、ICTメディアを学習に利用することがある（「よくある」+「時々ある」）と回答した、中学生1,347名、高校生2,681名。

## 2-7 [学習とICTメディア]

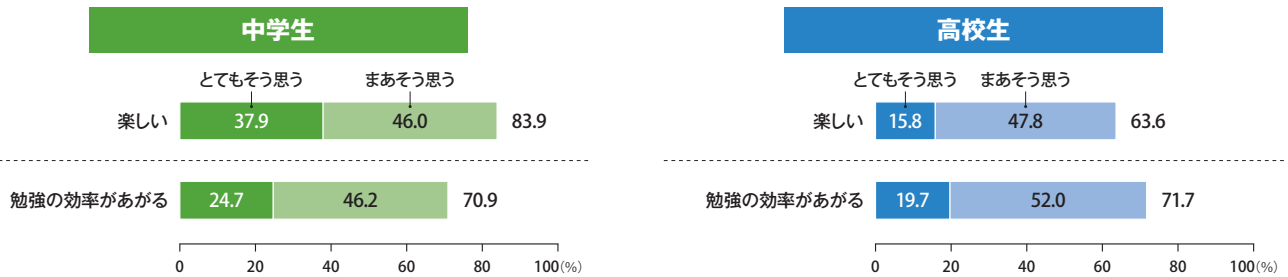
## ICTメディアを使って学習している中学生の8割、高校生の6割が「楽しい」と感じている



あなたは、パソコンやスマートフォン、タブレットなどを使った勉強をどのように感じていますか。

※「よくある」「時々ある」の回答者のみ

図2-17 ICTメディアの学習利用（中学生・高校生 [利用者のみ]）



注) 対象は、ICTメディアを学習に利用することがある（「よくある」+「時々ある」）と回答した、中学生1,347名、高校生2,681名。

## 中学生の3割、高校生の5割が「携帯電話やスマートフォンが気になって勉強に集中できない」

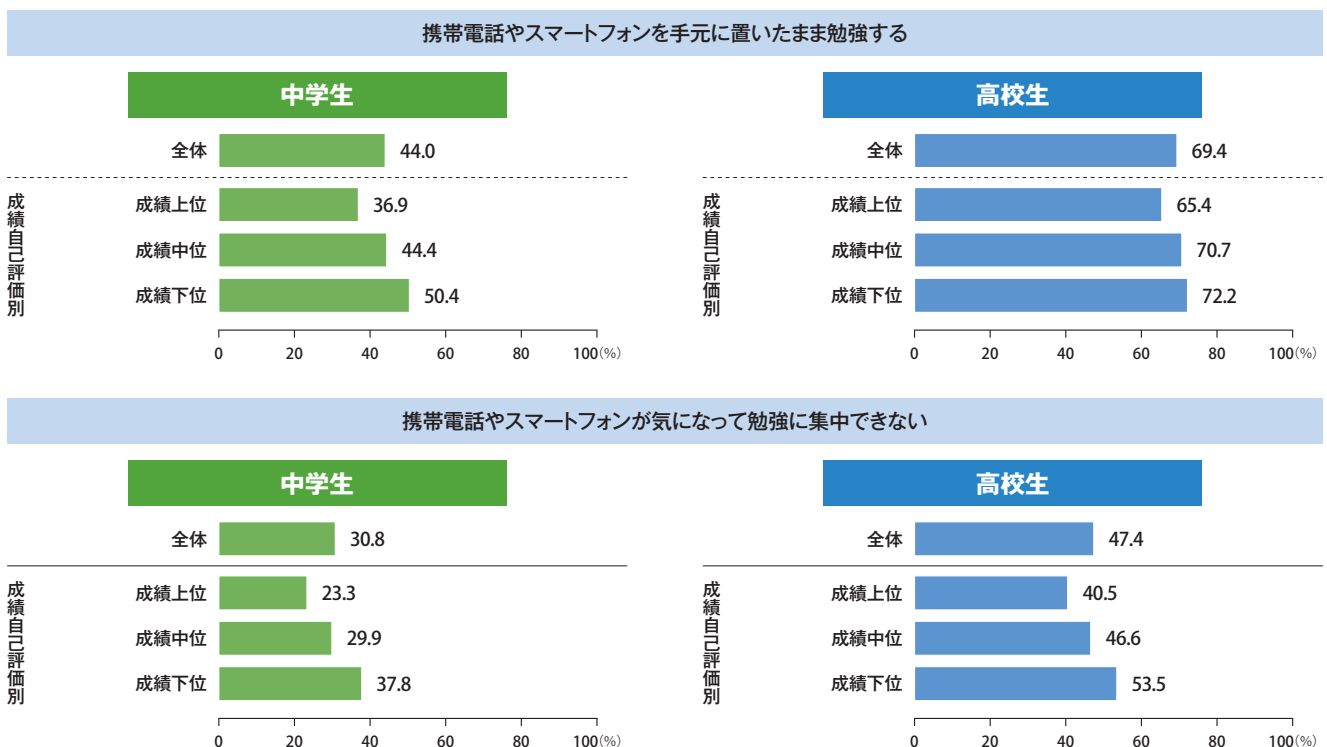
家で、携帯電話やスマートフォンを手元に置いて勉強をしている中学生は44.0%、高校生が69.4%（「あてはまる」+「まああてはまる」の%、以下同）、また、「携帯電話やスマートフォンが気になって勉強に集中できない」と感じている中学生が30.8%、高校生47.4%である。それらを成績自己評価別にみると、中高生とも成績が低い層ほど肯定率が高い傾向がみられている。



家での勉強のようすについてうかがいます。

図2-18 携帯電話・スマートフォンの学習への影響（中学生・高校生 [全体]）

「あてはまる」+「まああてはまる」の%



注) 成績自己評価は、「現在の総合的な成績は、学年の中でどのくらいですか」の項目に「1（上のほう）～3」と回答した生徒を「上位」、「4（真ん中）」を「中位」、「5～7（下のほう）」を「下位」としている。

## 3-1 [成績観・学力観]

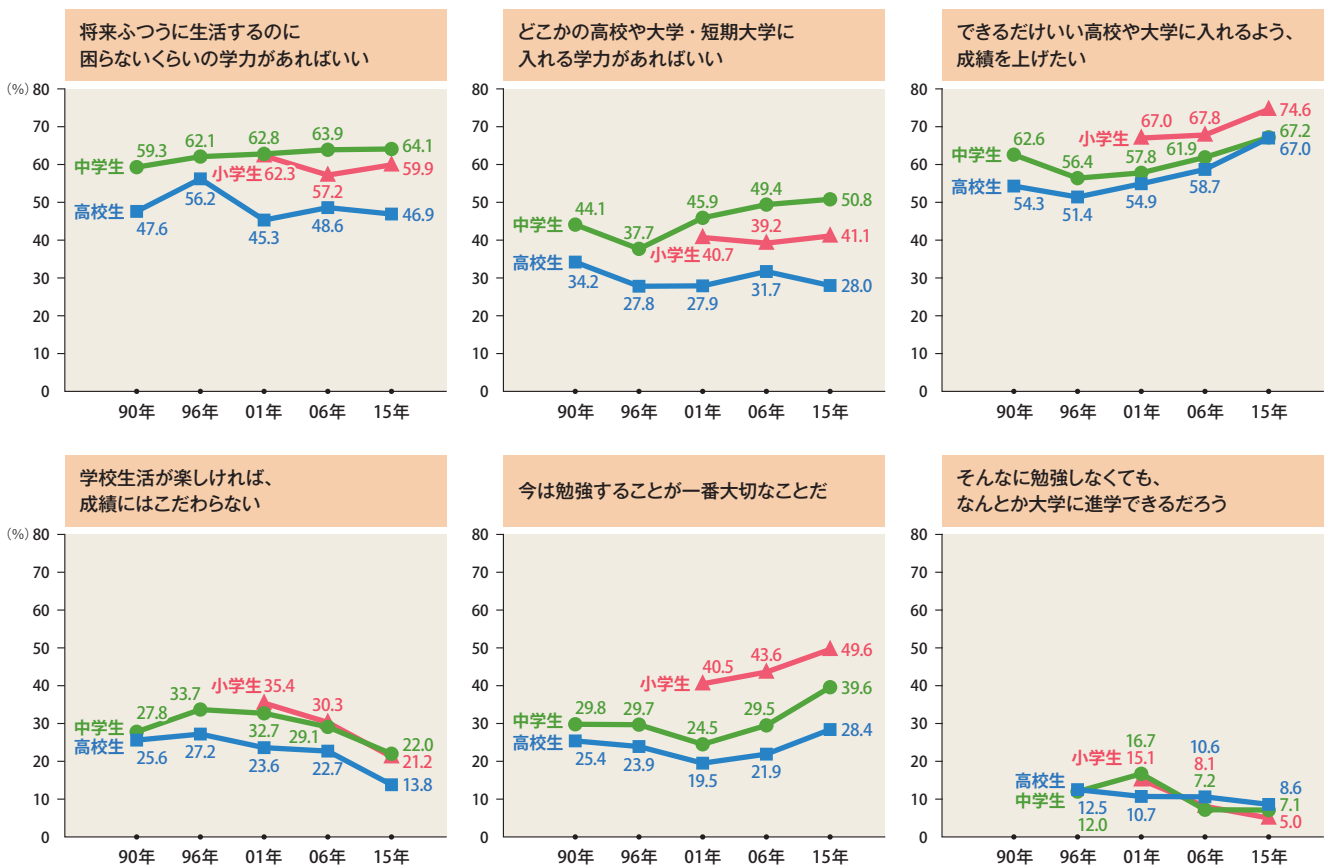
## 「できるだけいい高校や大学に入れるよう成績を上げたい」が上昇

小・中・高校生とも「今は勉強することが一番大切なことだ」が2001年以降増加している。成績についても、「できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい」が、2006年比で小・中・高校生とも5ポイント以上上昇しており、7割前後が進学のために成績を上げたいと考えている。また、「学校生活が楽しければ、成績にはこだわらない」はいずれの学校段階でも前回比で5ポイント以上減少した。小・中・高校生とも勉強は大切で、成績を上げたいという意識が高まっている。

Q あなたは、次のように思うことがありますか。

図3-1 成績観・学力観（小学生・中学生・高校生）

※複数回答



注1) 小学生はすべての項目について90年・96年はたずねていない。

注2) 「そんなに勉強しなくても、なんとか大学に進学できるだろう」は90年に該当項目なし。

注3) 「どこかの高校や大学・短期大学に入れる学力があればいい」は、高校生は「どこかの大学・短期大学」としてたずねている。

注4) 「できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい」は、高校生は「できるだけいい大学」としてたずねている。

注5) 「そんなに勉強しなくても、なんとか大学に進学できるだろう」は、96年・01年は「そんなに勉強しなくても、なんとか進学できるだろう」としてたずねている。

## 3-2 [学習の悩み]

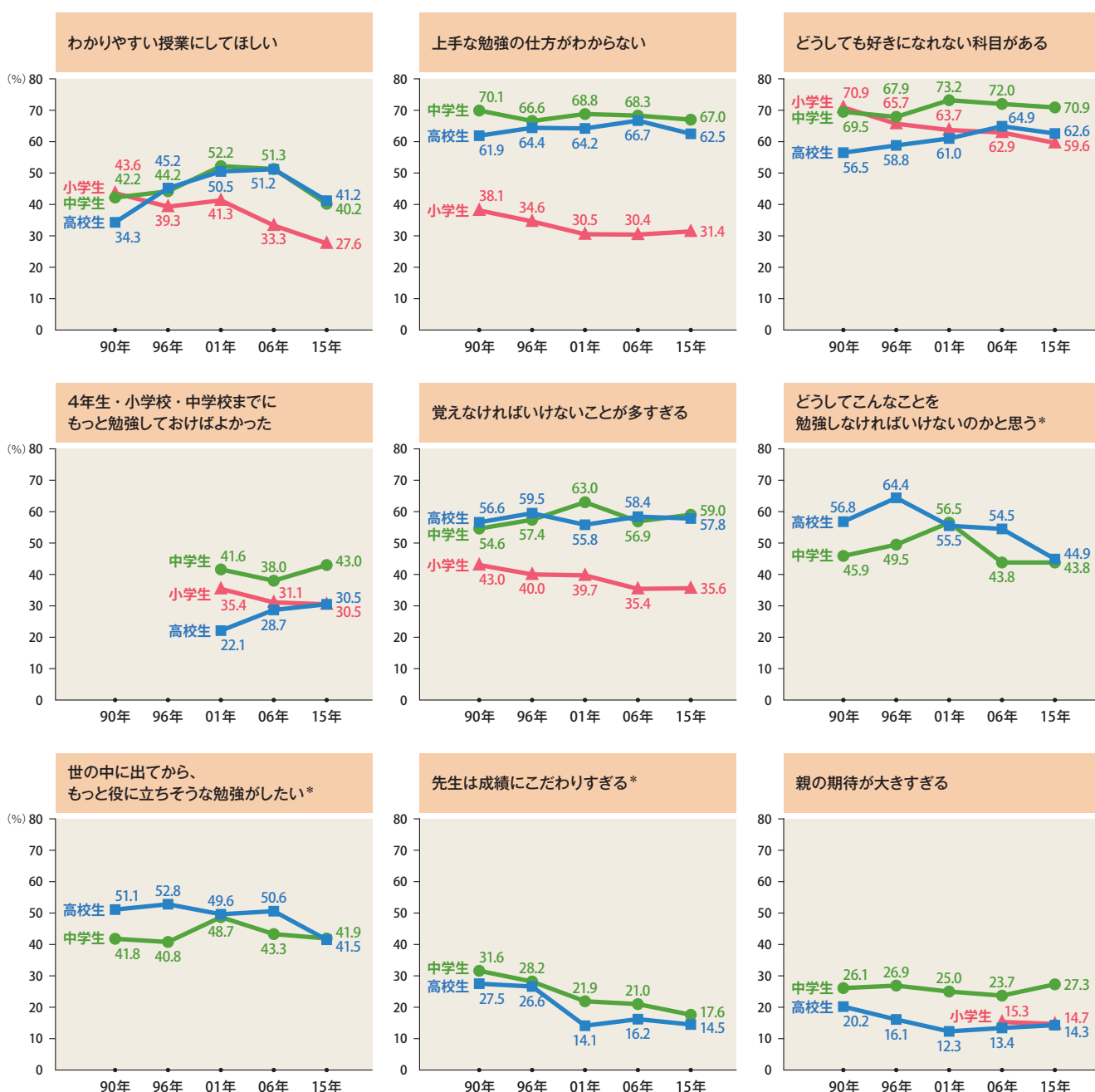
## 「わかりやすい授業にしてほしい」と感じる割合が減少

学習の悩みをたずねた項目のうち、「わかりやすい授業にしてほしい」は、中学生が11.1ポイント減、高校生が10.0ポイント減でいずれも選択率は4割に、小学生は5.7ポイント減で3割弱となった。これは、今回多くの教科で理解度が上昇していることと同様の傾向である(P.5参照)。また、高校生については「どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」や「世の中に出てから、もっと役に立ちそうな勉強がしたい」が10ポイント弱減少している。

Q あなたは勉強について、次のように思うことがありますか。

図3-2 学習の悩み(小学生・中学生・高校生)

※複数回答



注1) \*の項目は中学生・高校生のみにとずねている。また、各項目についてグラフのない年は該当項目をたずねていない。

注2) 「4年生・小学校・中学校までにもっと勉強しておけばよかった」は、小学生は「4年生までに」、中学生は「中学校までに」、高校生は「中学校までに」としてたずねている。

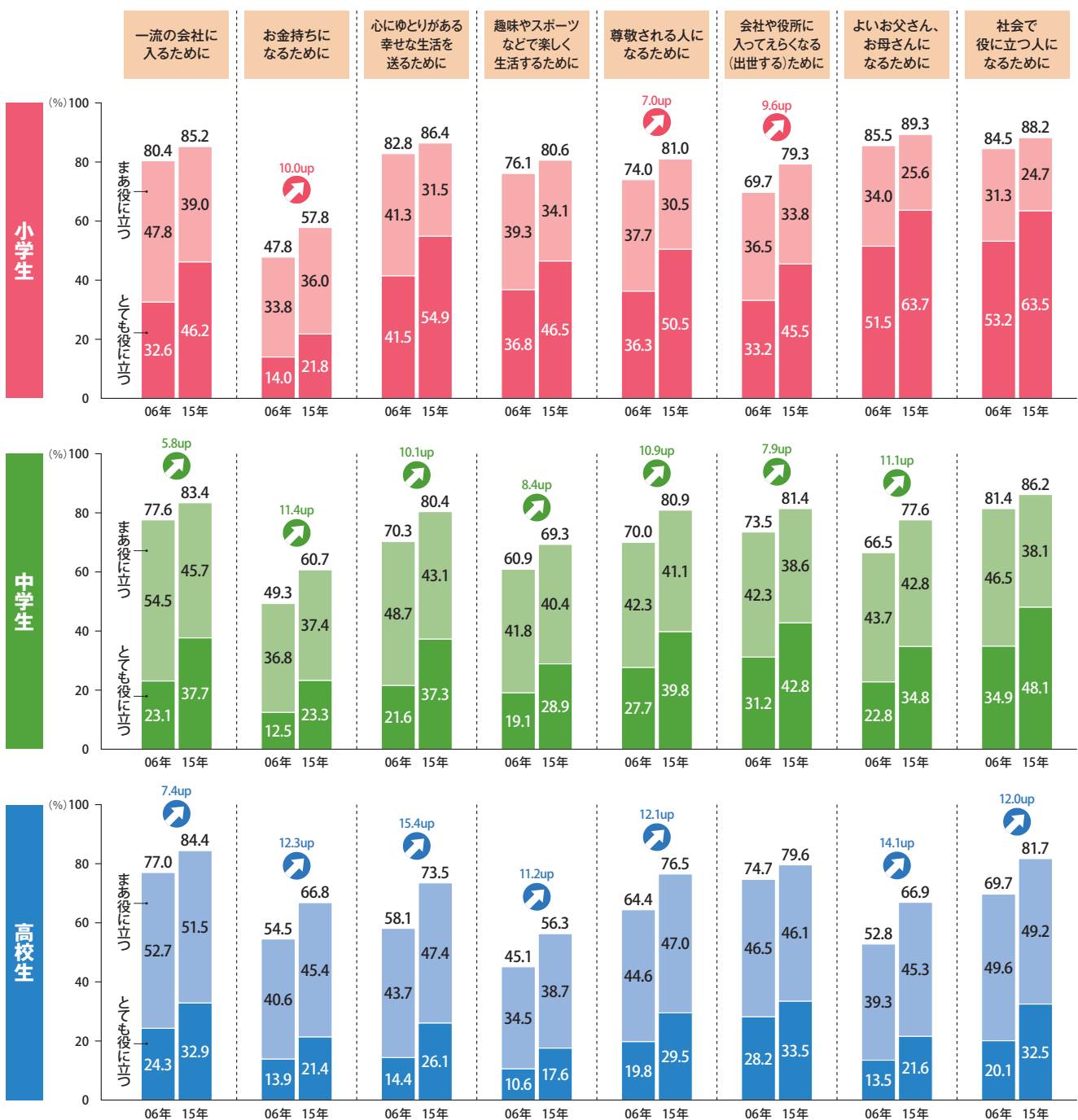
### 3-3 [勉強の効用]

#### 学校の勉強が将来の生活や社会での成功に役に立つという考えが広がっている

学校の勉強が役に立つと思うかについてたずねたところ、小・中・高校生ともすべての項目において肯定的な回答が増加している。特に、「一流の会社に入るために」(小85.2%、中83.4%、高84.4%(「とても役に立つ」+「まあ役に立つ」の%、以下同))、「社会で役に立つ人になるために」(小88.2%、中86.2%、高81.7%)は、学校段階を問わず8割以上となっている。学校の勉強が将来の生活や社会における成功に役に立つという考えが広がっていることが読み取れる。

Q 学校の勉強は、次のことにどのくらい役立つと思いますか。

図3-3 勉強の効用(小学生・中学生・高校生)



注) ↑は前回(06年)比で5ポイント以上増加した項目。

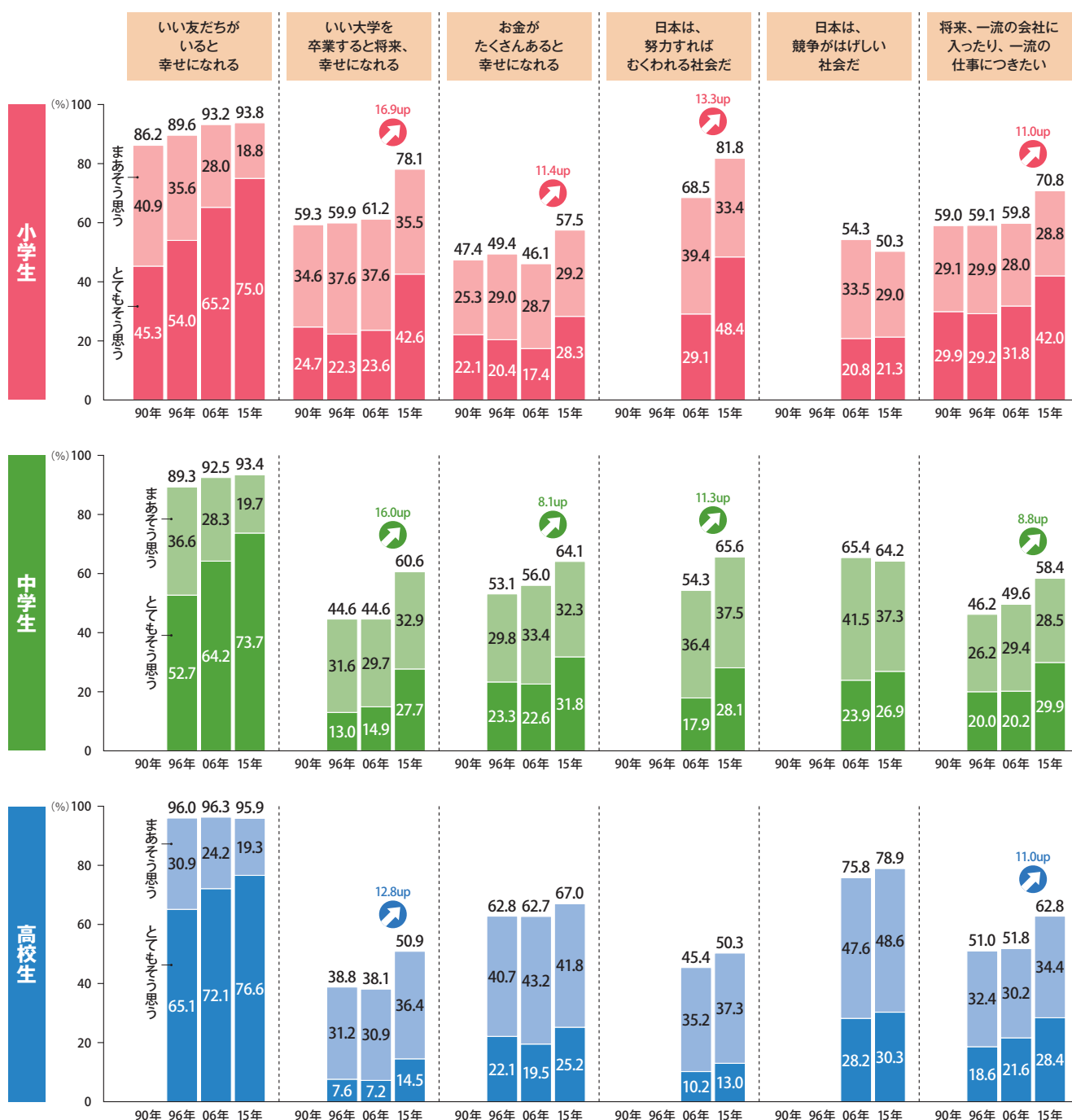
### 3-4 [社会観・将来観]

#### 「いい大学を卒業すると将来、幸せになれる」と考える小・中・高校生が増加

小・中・高校生とも「いい友だちがいると幸せになれる」と考える割合が9割を超えている（「とてもそう思う」+「まあそう思う」の%、以下同）。また、「いい大学を卒業すると将来、幸せになれる」という考えが小・中・高校生とも前回2006年比で10ポイント以上増えている。「将来、一流の会社に入ったり、一流の仕事につきたい」「お金がたくさんあると幸せになれる」「日本は、努力すればむくわれる社会だ」との考えも2015年調査で増加している。

Q あなたは、次の意見をどう思いますか。

図3-4 社会観・将来観（小学生・中学生・高校生）



注1) 赤、緑、青の矢印は前回(06年)比で5ポイント以上増加した項目。  
 注2) 全てについて01年はたずねていない。また、各項目についてグラフのない年は該当項目をたずねていない。

## 4-1 [小学生の習い事]

## 男女とも「スポーツ」がもっとも多い

小学生の習い事を性別にみると、男子は「スポーツ」が70.3%ともっとも多く、1990年から常に1位であるが、1990年と比較すると13.1ポイント増えている。女子も「スポーツ」が42.0%でもっとも多いが、前回2006年までは「音楽」が1位であったのが、今回逆転している。一方、1990年から減少幅が大きいのが「習字」で、男子で22.7%（1990年）→10.0%（2015年）に、女子で40.5%→20.2%に減少している。

表4-1 小学生の習い事（性別）

		1990年		1996年		2001年		2006年		2015年		90年からの 変化
男子	1位	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど	57.2	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど	56.4	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど	60.7	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど	65.4	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど	70.3	13.1up ↑
	2位	習字	22.7	習字	22.9	習字	15.3	英語	14.4	英語	13.5	
	3位	そろばん	15.5	英語	12.9	英語	14.8	習字	11.5	習字	10.0	12.7down ↓
	4位	英語	12.8	そろばん	12.2	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど	10.5	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど	9.7	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど	9.9	
	5位	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど	9.6	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど	10.2	そろばん	8.3	そろばん	6.2	そろばん	7.9	
	6位	絵	2.0	絵	1.7	絵	1.6	バレエ、ダンス 絵	1.1	バレエ、ダンス	1.6	
	7位					バレエ、ダンス	0.7			絵	1.5	
		何もしていない	19.0	何もしていない	14.8	何もしていない	17.2	何もしていない	18.8	何もしていない	16.3	
女子	1位	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど	45.3	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど	40.5	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど	41.5	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど	36.7	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど	42.0	12.8up ↑
	2位	習字	40.5	習字	36.0	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど	33.0	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど	36.3	音楽 ピアノ、バイオリン、 エレクトーンなど	32.5	12.8down ↓
	3位	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど	29.2	スポーツ 水泳、剣道、柔道、体操、 野球、サッカーなど	26.6	習字	29.5	習字	21.0	英語	20.3	
	4位	そろばん	19.5	英語	17.2	英語	19.3	英語	16.6	習字	20.2	20.3down ↓
	5位	英語	13.6	そろばん	14.7	そろばん	9.4	バレエ、ダンス	11.3	バレエ、ダンス	15.2	
	6位	絵	2.1	絵	2.6	バレエ、ダンス	7.0	そろばん	8.0	そろばん	9.3	10.2down ↓
	7位					絵	3.6	絵	2.1	絵	2.9	
		何もしていない	14.3	何もしていない	15.8	何もしていない	14.1	何もしていない	18.7	何もしていない	18.6	

注1) 複数回答。注2) 「その他」は省略している。注3) 「バレエ、ダンス」は1990年、1996年はたずねていない。



## 4-2 [中学受験]

### 東京で公立中高一貫校受験希望者が増え、私立中学校受験希望者が減少

小学5年生の夏休み前の時点で、中学受験を決めているのは25.2%で、前回から大きな変化はない。通塾率も前回比でほぼ横ばいである(図4-1)。受験を決めている人に対して、希望する学校の種類をたずねたところ、私立中学校が47.0%でもっとも多いが、公立中高一貫校の比率が増えており、東京だけを見ると、私立中学校の希望者が前回比で10.5ポイント減少、公立中高一貫校が14.1ポイント増加している。また、受験を決めている人の学習時間をみると、35.5%が平日に3時間以上勉強している(図4-3)。

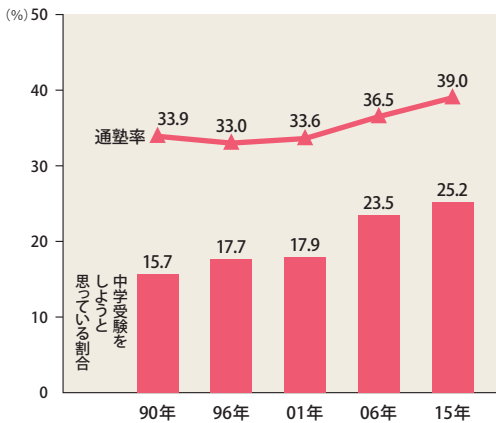
Q1

あなたは、どこかの中学校(私立中学校や大学の附属中学校、中高一貫校など)を受験しようと思っていますか。

Q2

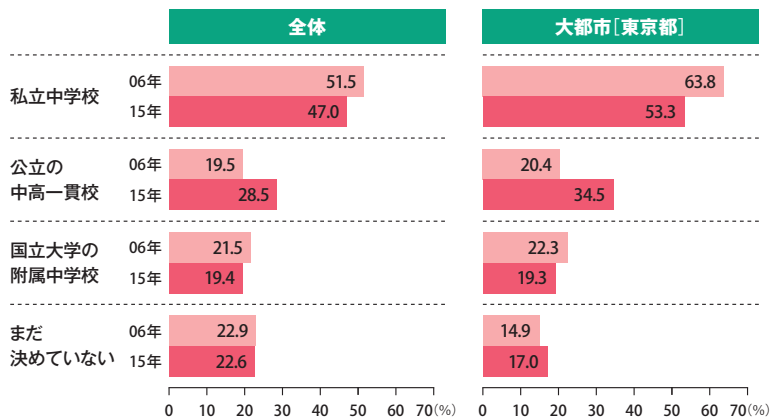
(「はい」と答えた人におききします。) どのような中学校を受験しようと思っていますか。

図4-1 中学受験の希望と通塾率(小学生)



注) 「通塾率」は、「あなたは今、学習塾に行っていますか」という質問に対し、「行っている」と答えた人の割合。

図4-2 受験を希望する学校(小学生[受験希望者のみ])



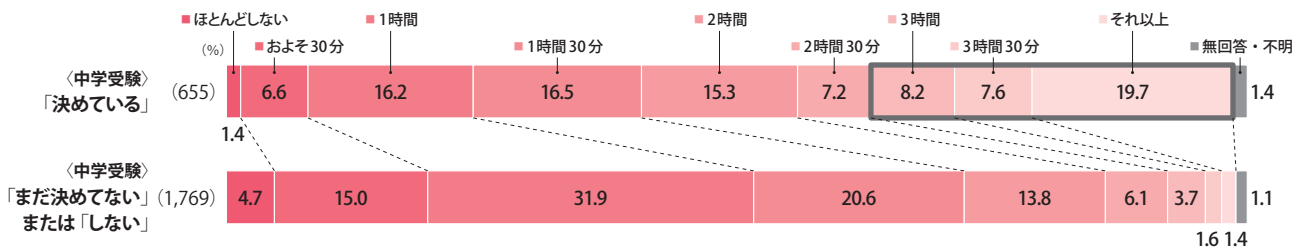
注1) 複数回答。

注2) 対象は「どこかの中学校を受験しようと思っていますか」という質問に「はい」と回答した人。全体06年641名、15年655名、大都市06年417名、15年441名。

Q

あなたはふだん(月曜日～金曜日)、学校での授業以外に1日にだいたい何時間くらい勉強していますか。学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間も含めてください。

図4-3 平日の学校外の学習時間(小学生、中学受験希望の有無別)



注) 「決めている」は「どこかの中学校を受験しようと思っていますか」という質問に「はい」と回答した人、「しない」は「いいえ」と回答した人を表す。

## 4-3 [大学入試]

## 「推薦・AO入試」を希望する高校生が減っている

四年制大学への進学希望者に、入試方法の希望をたずねたところ、「推薦・AO入試」の希望が1996年からずっと4割程度で推移していたのが、今回調査では28.7%に減り、その分、「一般入試」の希望が増えた。高校の偏差値帯別にみると、どの層においても「推薦・AO入試」は減少傾向にあり、特に45以上の層ではいずれも10ポイント以上減っている。

Q

大学へ進学する方法には、大きく分けて「推薦入試やAO入試」と「一般入試」の2つの方法があります。あなたは、どちらの方法で進学したいですか。

図4-4 大学入試方法の希望（高校生[大学進学希望者のみ]）

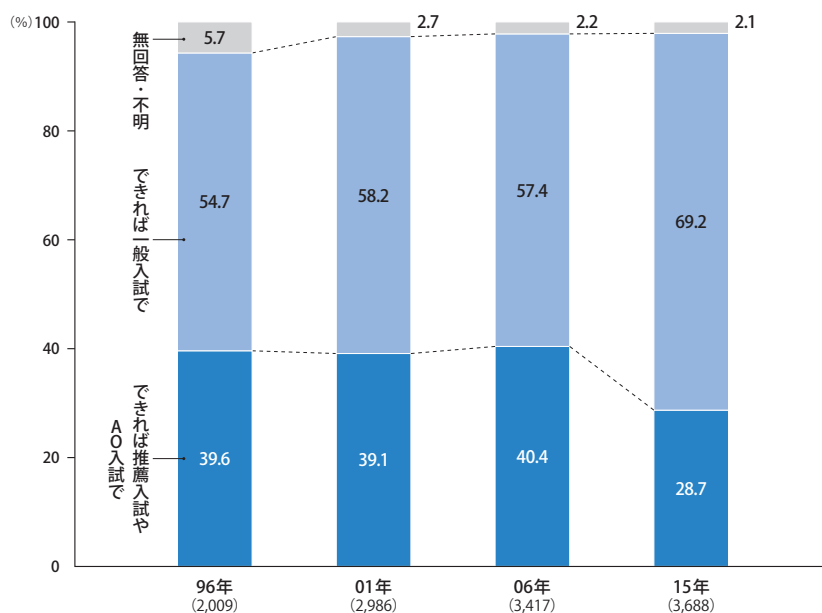
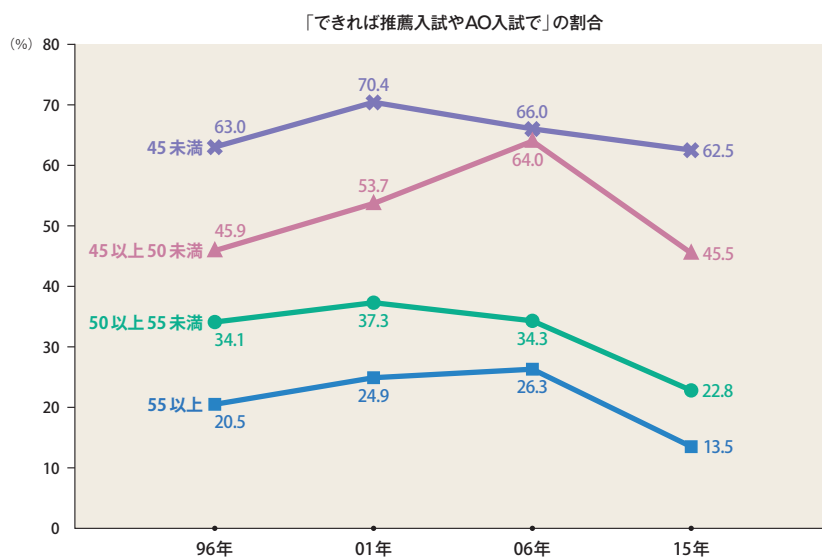


図4-5 大学入試方法「推薦・AO入試」を希望する割合（高校生[大学進学希望者のみ]、学校偏差値帯別）



注1) 対象は大学進学希望者のみ。大学進学希望者は「あなたは将来、どの学校まで進みたいですか」との質問に対し、「四年制大学まで」「大学院まで」と回答した人。大学進学希望者の割合は、96年76.9%、01年78.4%、06年76.6%、15年83.3%。( )内の数値はサンプル数。  
 注2) 「できれば推薦入試やAO入試で」は、96年は「できれば推薦で」、01年は「できれば推薦(AO入試)で」としてたずねている。  
 注3) 90年はたずねていない。

小中学生の好きな教科は時代とともにどう変わっている？

## 好きな教科・活動ランキング

小学生は「家庭」、中学生は「保健体育」が1位。

小学生の「外国語(英語)活動」は4位だが、中学生になると「英語」は10位に。

中学生の「総合的な学習の時間」の順位が上昇。

[とても好き]+[まあ好き]の%

	1990年		1996		2001		2006		2015		
小学生	1位	体育	79.4 (%)	図画工作	86.5	図画工作	83.6	体育	84.9	家庭	90.2
	2位	図画工作	75.8	家庭	82.7	体育	81.6	家庭	84.3	図画工作	86.5
	3位	理科	71.4	体育	80.9	家庭	79.6	図画工作	79.1	体育	83.1
	4位	家庭	67.8	理科	71.3	音楽	69.7	理科	68.5	外国語(英語)活動	77.6
	5位	音楽	57.6	音楽	62.2	理科	68.2	総合的な学習の時間	67.0	理科	75.2
	6位	国語	52.2	国語	61.0	総合的な学習の時間	61.0	音楽	66.8	総合的な学習の時間	74.4
	7位	算数	51.8	算数	53.1	算数	55.6	算数	62.8	音楽	71.5
	8位	社会	50.9	社会	51.4	国語	54.7	国語	53.4	算数	68.4
	9位					社会	49.6	社会	48.0	国語	58.5
	10位									社会	55.6

	1990年		1996		2001		2006		2015		
中学生	1位	体育	61.4 (%)	体育	65.1	体育	67.0	体育	67.1	保健体育	66.6
	2位	社会	49.2	理科	52.8	美術	49.3	理科	53.1	技術・家庭	59.5
	3位	音楽	48.0	美術	51.0	音楽	46.9	美術	49.0	総合的な学習の時間	58.7
	4位	技術・家庭	47.8	技術・家庭	46.1	理科	46.8	音楽	47.2	音楽	58.1
	5位	美術	46.3	音楽	45.6	技術・家庭	45.0	技術・家庭	45.6	社会	57.8
	6位	理科	41.6	数学	45.4	国語	43.2	数学	45.0	美術	56.3
	7位	国語	38.2	英語	43.3	社会	42.8	国語	42.1	数学	54.5
	8位	英語	38.1	社会	42.1	英語	42.8	総合的な学習の時間	42.0	理科	51.4
	9位	数学	37.2	国語	41.0	総合的な学習の時間	40.7	社会	41.1	国語	50.8
	10位					数学	39.4	英語	39.4	英語	50.4

注1) 中学生の「体育」は、2015年は「保健体育」としてたずねている。

注2) 「総合的な学習の時間」は「履修していない(やっていない)」を除外して算出している。

注3) 小学生の「外国語(英語)活動」は2015年のみたずねている。

教科・活動に関する  
おもな変化

1992年 小学校1・2年生に「生活科」を新設。「社会科」「理科」を廃止。

1993年 中学校で「家庭科」が男女共修に。

2000年 「総合的な学習の時間」が段階的に導入される。2002年より必修化。

2011年 小学校5・6年生で「外国語活動」が必修化。

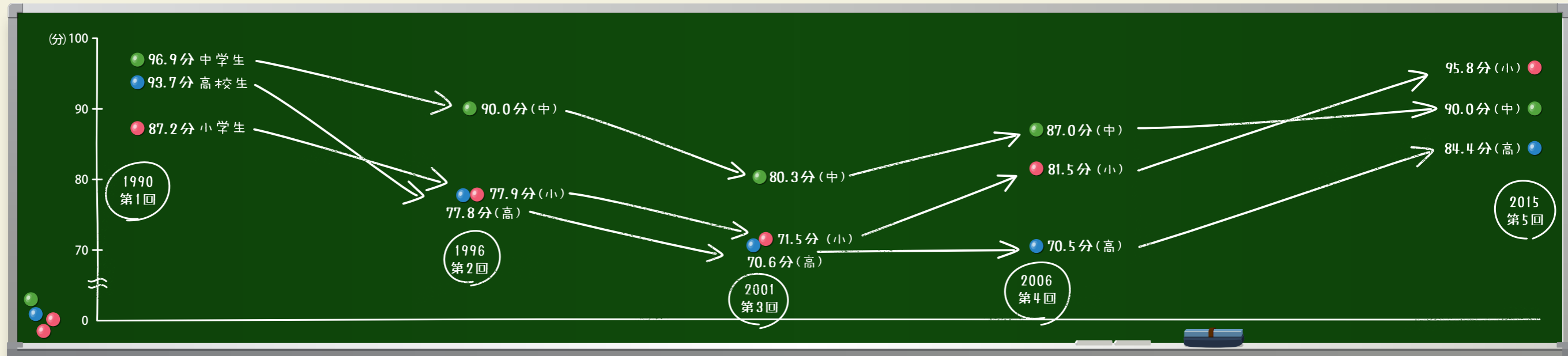
2012年 中学校の「保健体育」で武道・ダンスが必修化。

1990年からの25年間に子どもたちの学びを取り巻く環境はどう変わったのだろうか。  
子どもの平日の平均学習時間の推移と重ね合わせてみよう。

教育政策・教育環境

年	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015							
教育トピックス	●初の大学入試センター試験実施	●大学設置基準の大綱化	●大学・短大志願者のピーク(121.5万人)	●業者テストの禁止	●高等学校で総合学科が制度化	●公立学校にスクールカウンセラーを配置する制度の導入				●「学力低下論争」始まる	●中高一貫教育制度化・公立で中高一貫校導入	●学校評議員制度の導入	●不登校児童生徒数過去最多(13.9万人、小中学校)	●「PISA2000」結果公表	●「PISA2003」結果公表↓順位低下(PISAショック)	●学校運営協議会制度導入	●「読解力向上プログラム」策定	●「教育基本法」改正	●「教育基本法」改正	●「全国学力・学習状況調査」開始	●「教育二法改正」	●「PISA2006」結果公表	●「教育振興基本計画」策定			●「PISA2009」結果公表↓改善傾向	●公立高校授業料無償化開始	●「PISA2012」結果公表↓回復	●教育再生実行会議設置	●「PISA2015」結果公表↓回復	●SGH開始	●中教審で大学入試改革、次期学習指導要領について検討	●小中一貫校制度化(2016年度より施行)
学習指導要領	内容	[新しい学力観と個性尊重] ●小学校低学年に「生活科」新設 ●中学校で選択教科の履修幅の拡大 ●高等学校で選択教科・科目の履修幅拡大											[生きる力育成とゆとりの確保] ●授業時数の大幅削減と教育内容の厳選 ●「総合的な学習の時間」の新設 ●高等学校で「情報」の新設											[生きる力の継承・確かな学力の育成] ●知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスの重視 ●確かな学力確立のため必要な授業時数の確保 ●小学校高学年の「外国語活動」導入									
	授業時数	●小学校：5,785時間(小1：850/小2：910/小3：980/小4～6：1,015) ●中学校：3,150時間(中1～3：1,050)											●小学校：5,367時間(小1：782/小2：840/小3：910/小4～6：945) ●中学校：2,940時間(中1～3：980)											●小学校：5,645時間(小1：850/小2：910/小3：945/小4～6：980) ●中学校：3,045時間(中1～3：1,015)									
	小学校	移行措置期間	89告示学習指導要領											移行措置期間	98告示学習指導要領											移行措置期間	08告示学習指導要領						
	中学校	移行措置期間	89告示学習指導要領											移行措置期間	98告示学習指導要領											移行措置期間	08告示学習指導要領						
高校	移行措置期間	89告示学習指導要領											移行措置期間	99告示学習指導要領											移行措置期間	09告示学習指導要領							
学校週5日制			第2土曜休		第2・第4土曜休											完全週5日制																	

平日の平均の学校外学習時間(学習基本調査)



社会環境

年	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
A. 人口(7～18歳)(千人)	21,158	20,619	19,995	19,334	18,753	18,242	17,758	17,287	16,857	16,464	16,143	15,825	15,522	15,210	14,952	14,812	14,634	14,492	14,369	14,260	14,248	14,126	13,977	13,814	13,670	13,547*
減少率(1990年を100とする)(%)	(100)	(97.5)	(94.5)	(91.4)	(88.6)	(86.2)	(83.9)	(81.7)	(79.7)	(77.8)	(76.3)	(74.8)	(73.4)	(71.9)	(70.7)	(70.0)	(69.2)	(68.5)	(67.9)	(67.4)	(67.3)	(66.8)	(66.1)	(65.3)	(64.6)	(64.0)
B. 大学進学率(%)	24.6	25.5	26.4	28.0	30.1	32.1	33.4	34.9	36.4	38.2	39.7	39.9	40.5	41.3	42.4	44.2	45.5	47.2	49.1	50.2	50.9	51.0	50.8	49.9	51.5	51.7
C. 大卒就職率(%)	81.0	81.3	79.9	76.2	70.5	67.1	65.9	66.6	65.6	60.1	55.8	57.3	56.9	55.1	55.8	59.7	63.7	67.6	69.9	68.4	60.8	61.6	63.9	67.3	69.8	72.6

注1) 赤字はもっとも高い値、青字はもっとも低い値を示す。  
注2) \*の値は、2014年の6～17歳の合計値。

【出典】 A) 総務省統計局「人口推計」(http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2.htm) から7～18歳人口を合計(各年10月1日現在人口)。  
B) 文部科学省「学校基本調査」。大学(学部)への進学率。進学率には過年度卒を含む。  
C) 文部科学省「学校基本調査」。大学卒業生(学部)の値。

## ベネッセ教育総合研究所

ベネッセ教育総合研究所では、  
乳幼児・小学生から大学生・社会人まで、  
また、その保護者、教師・学校など、  
幅広い範囲を対象に調査・研究を行っています。  
また、国内外の中長期にわたる教育環境の変化予測や、  
独自の調査研究に基づく情報発信を行うとともに、  
教育内容や方法、評価測定などについても  
研究開発を進めています。

<http://berd.benesse.jp/>

## 第5回 学習基本調査

調査企画・分析メンバー

---

**耳塚寛明** お茶の水女子大学 教授（研究会代表）

---

**樋田大二郎** 青山学院大学 教授

---

**西島 央** 首都大学東京 准教授

---

**寺崎里水** 法政大学 准教授

---

**木村治生** ベネッセ教育総合研究所 主席研究員

---

**邵 勤風** ベネッセ教育総合研究所 主任研究員

---

**吉本真代** ベネッセ教育総合研究所 研究員

---

**太田昌志** ベネッセ教育総合研究所 特任研究員

---

**沓澤 糸** ベネッセ教育総合研究所 特任研究員

---

## 第5回 学習基本調査

### DATA BOOK

---

発行	2016年1月28日
発行人	谷山和成
編集人	木村治生
発行所	(株) ベネッセホールディングス ベネッセ教育総合研究所
企画・制作	ベネッセ教育総合研究所 〒206-0033 東京都多摩市落合1-34 TEL:042-311-3390
Webサイト	<a href="http://berd.benesse.jp/">http://berd.benesse.jp/</a>
編集協力	(株) オンソノ

---

© Benesse Educational Research and Development Institute



## ベネッセ教育総合研究所

〒206-0033 東京都多摩市落合 1-34  
TEL:042-311-3390

5BB067